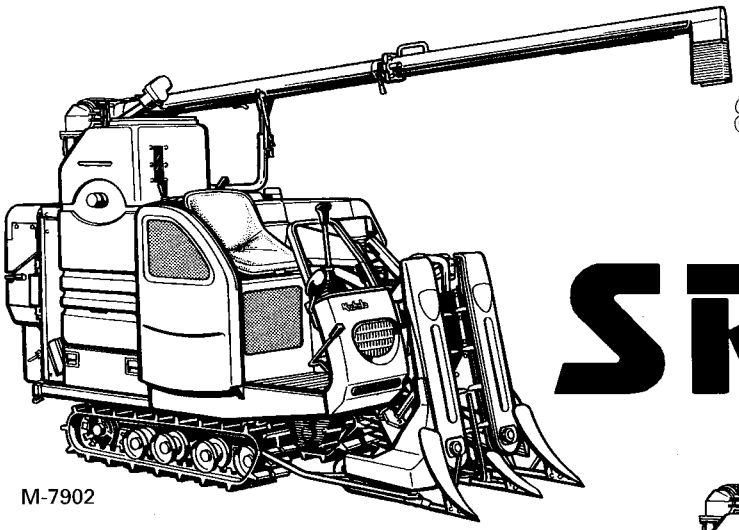
クボタコンバイン

取扱説明書

グレン
タンク仕様

スカイロード ジョイカム

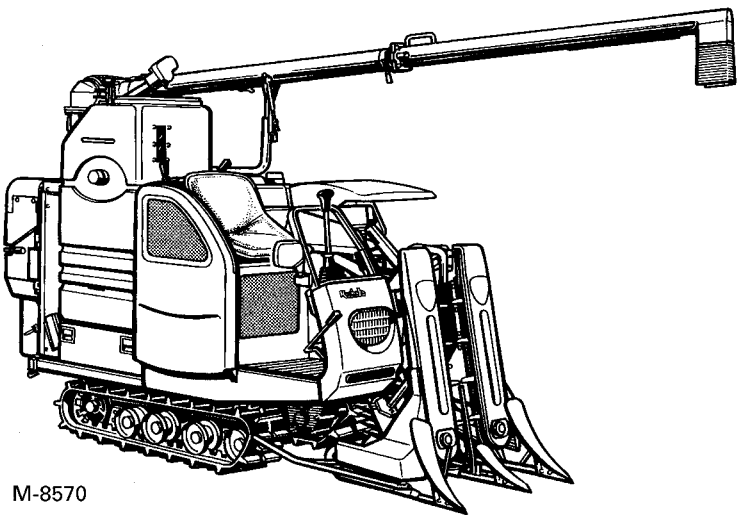
SR-J2G·J3G·R216sG J4G·J5G



M-7902

ジョイカム キャプテン

SR-J6G



M-8570

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品が，別冊の取扱説明書と異なる部分について説明してあります。（別冊と異なる部分は，必ずこの取扱説明書を優先してご活用ください。）
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。
また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警 告**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注 意**：注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重 要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補 足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。

なお，説明は**“SR-J5GHDLW仕様”**を基本とし，**“SR-J5GHDLW仕様”**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

【例】　SR- J5G HD LW N

①　②　③　④

①エンジン出力(PS)によって … “SR-J2G” “SR-J3G” “SR-J4G” “SR-J5G” “SR-J6G” “R216SG”

②諸装置の仕様によって …… （別表参照）

- SR-J2G “K仕様”（スタンダード）
- SR-J3G “D仕様”（デラックス）
- SR-J4G / SR-J5G / SR-J6G “D仕様”（デラックス） “HD仕様”（ハイデラックス）
- R216SG “D仕様”（デラックス）

仕様 / 諸装置		J2G	J3G	J4G		J5G		J6G		R216SG
		K	D	D	HD	D	HD	D	HD	D
自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	自動方向制御	—	—	—	○	—	○	—	○	—
	自動エンジン停止	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アンローダ自動旋回	—	—	—	—	○	○	○	○	—
スライドヘッダ(電動)〔刈取スライド装置〕		—	○	○	○	○	○	○	○	○
集中注油装置(手動)		—	○	○	○	○	○	○	○	○
防じんカバー		—	—	—	—	—	—	○	○	—

③クローラによって

- ●330ロングワイドクローラ …… “LW仕様”
- ●400超ロングワイドクローラ … “LW２仕様”

④結束機搭載仕様

（この仕様以外は結束機を装着できません。）

5H250-8542-4

目　次

⚠安全に作業するために … ⚠-1

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。 …… ⚠-1
2. ⚠表示ラベルと貼付け位置 …… ⚠-1
3. ⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-3

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1
補修用部品の供給年限について …… 1

作業装置の名称と取扱い …… 2
作業装置の名称 …… 2
もみ排出クラッチレバー …… 3
アンローダレバー …… 3
アンローダ自動旋回制御装置【J5G･J6G】 …… 3

移動走行と輸送 …… 4
移動走行と輸送について …… 4
走行前の準備 …… 4

収穫作業のしかた …… 5
ほ場の準備 …… 5
ほ場の準備 …… 5
コンバインの準備 …… 5
アンローダ受け上下調節のしかた …… 5
アンローダの折りたたみかた・伸ばしかた …… 6
刈取作業の手順 …… 9
もみの排出のしかた …… 10
メータユニットによる異常と処置 …… 13

メンテナンス …… 14
各部のオープンと脱着のしかた …… 14
グレンタンクの取外し・取付けかた …… 14
各部の掃除と注油のしかた …… 15
掃除のしかた …… 15
注油のしかた …… 16
定期点検 …… 17
定期点検一覧表 …… 17
給・注油(水)点検一覧表 …… 18
バッテリの点検・交換 …… 18
吐出口ブーツの点検・交換 …… 18
もみ排出クラッチワイヤ及びグレンタンク駆動ベルトの点検・調整 …… 19
電気配線とヒューズの点検・交換 …… 20
長期格納のしかた …… 20

コンバインの不調と処置 …… 21
もみが詰まったときの処置 …… 21
アンローダの旋回異常が発生したときの処置 …… 22

付表 …… 23
主要諸元 …… 23
付属部品 …… 26
オプション(別売品) …… 26
消耗部品 …… 26

⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。

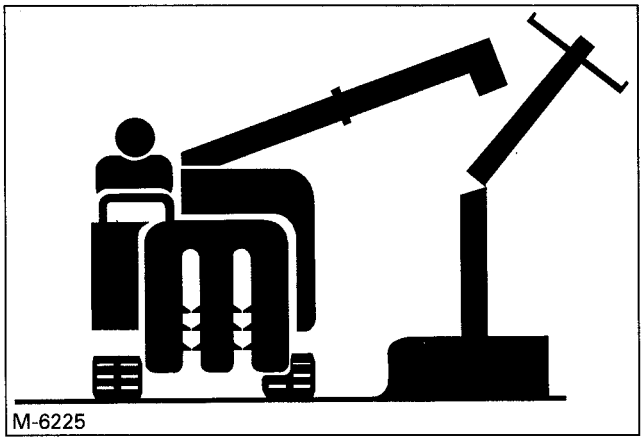
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警 告・⚠注 意・重 要・補 足としてそのつど取上げています。

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全なトラック輸送・移動走行

■もみはすべて排出してください。

■グレンタンクのアンローダはアンローダ受けを下げて収納し，アンローダを折りたたみ，バンドで固定してください。



M-6225

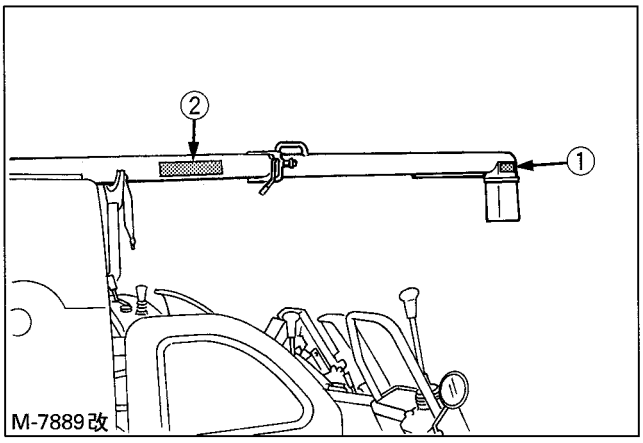
2．⚠表示ラベルと貼付け位置

① 品番 5G021-1714-2

⚠注 意

アンローダの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。



M-7889改

② 品番 5G021-1713-2

⚠ 注 意

手をはさみ、ケガをするおそれがあるので、「アンローダ受け」に手を置かないこと。

アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの作用範囲に人がいるときはアンローダを動かさないこと。

アンローダが自然に動きケガをするおそれがあるので、アンローダを伸ばしたり、折りたたんだりするときはアンローダを水平の状態にしエンジンを止めること。

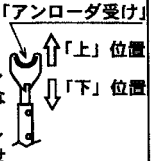
あぜ越え・移動時およびトラックで輸送する場合、アンローダが人・物にぶつかる危険があるので下記を守ること。

1. 「アンローダ受け」を「下」位置にする。
2. アンローダを収納する。
3. アンローダを折りたたむ。
4. アンローダを浮き上がらないようにバンドで固定する。

「アンローダ受け」の取扱い

アンローダからの「もみ」こぼれをなくすために下記を守ってください。

1. 作業時は「アンローダ受け」を「上」位置にしてください。
2. 「もみ」の排出を途中で止めて、アンローダを「アンローダ受け」に戻さないでください。
3. アンローダを折りたたむときは、アンローダをいったん最上位まで上昇させた後、「アンローダ受け」に戻してから折りたたんでください。



⚠ 安全に作業するために

① 品番 5H250-8114-3

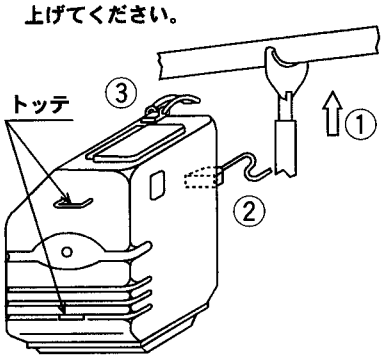
⚠ 注 意

タンクを外すときは中に回転物があり、ケガをするおそれがあるので必ずもみ排出クラッチを切り、エンジンを止めること。

グレンタンクの脱着のしかた

（タンク内に「もみ」が残っていないか確認してください。）

①アンローダは「上」位置にしてください。
②コードバンドとカプラを外してください。
③タンクのロックを外してください。
④上のトッテを手前に引き、その後上に持ち上げてください。



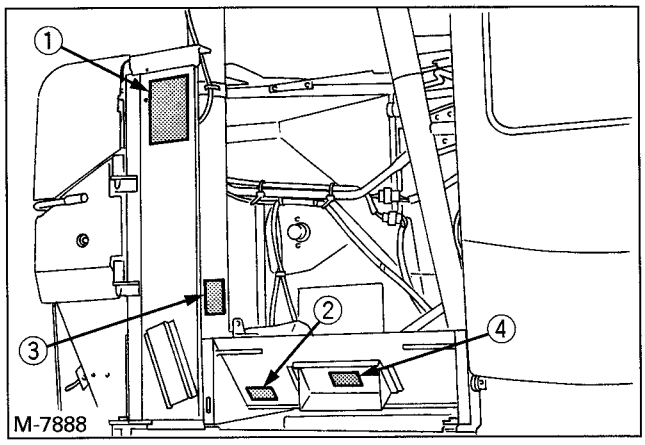
⑤タンクを取り付けるときは上記の逆の順番で行いタンクは確実に固定してください。

② 品番 53981-6434-1

⚠ 注 意

掃 除 口

中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。



③ 品番 5G021-1715-2

⚠ 注 意

ギヤーに巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。
点検時はメインスイッチを切りにすること。

④ 品番 53690-3129-2

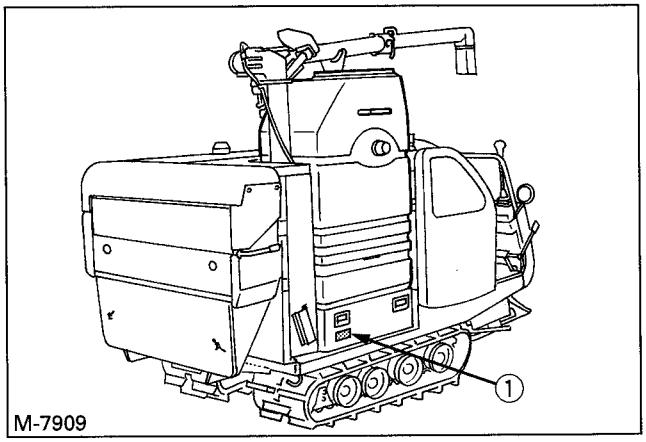
⚠ 注 意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

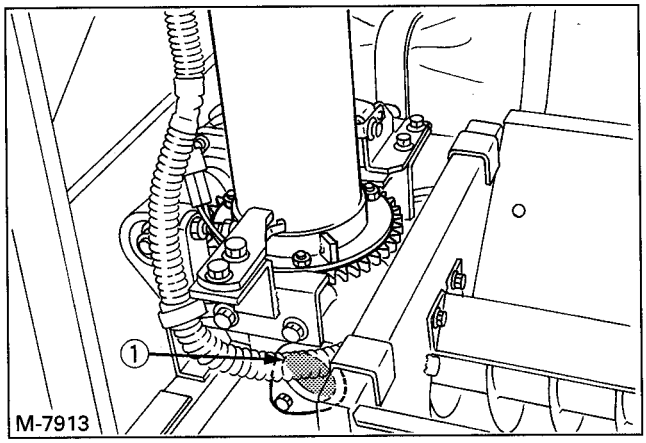
① 品番 53981-6432-1

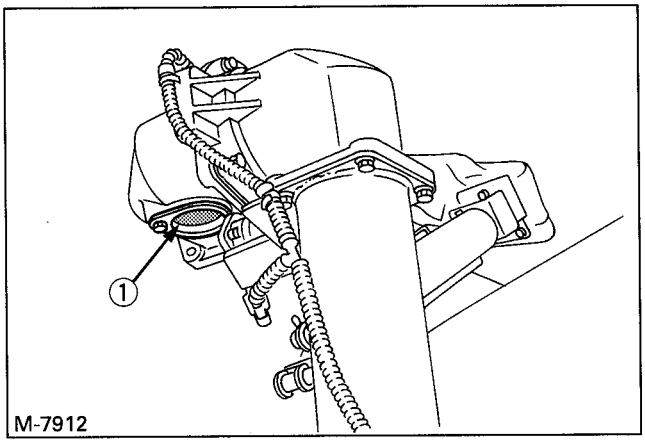
⚠ 注 意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

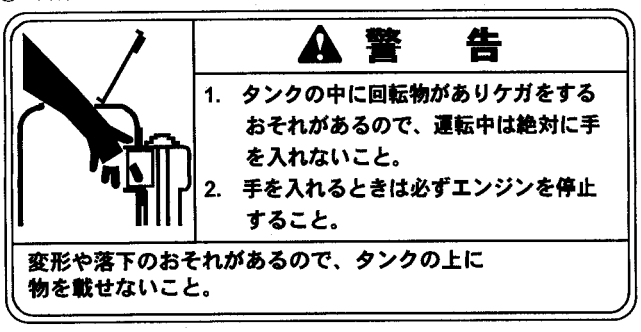


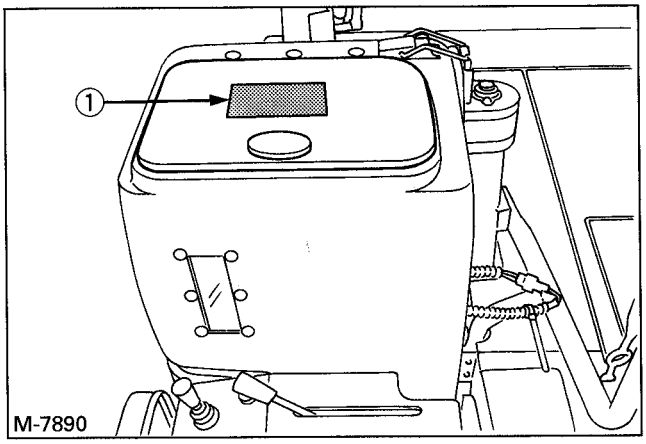
① 品番 5G021-1716-1





① 品番 5H250-5338-1





3. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふいてください。
シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

(4)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

(5)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいたご購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

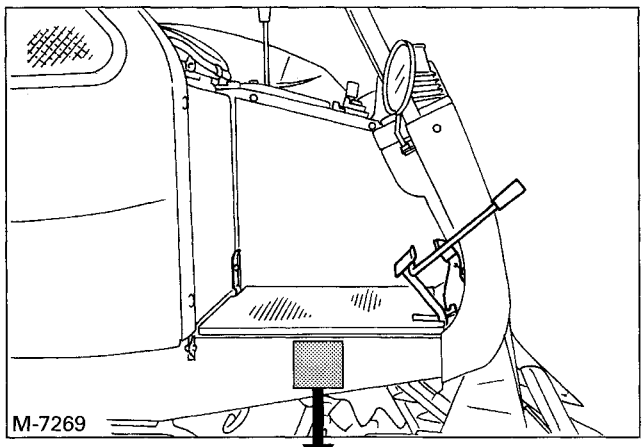
その際 (1)商品名・区分と車台番号
(2)とう載機関(エンジン)の型式名と機関(エンジン)番号

をあわせてご連絡ください。

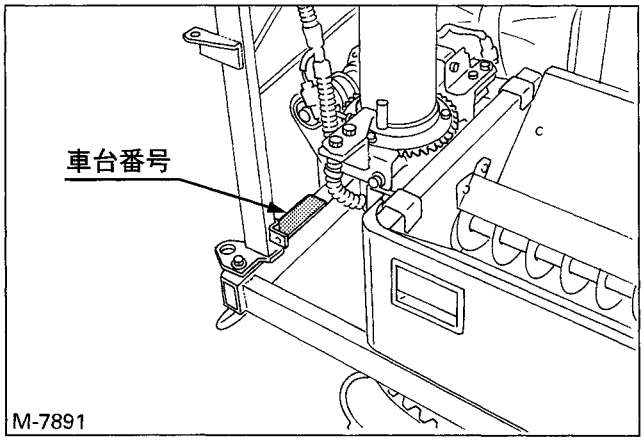
なお，部品ご注文の際は，ご購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

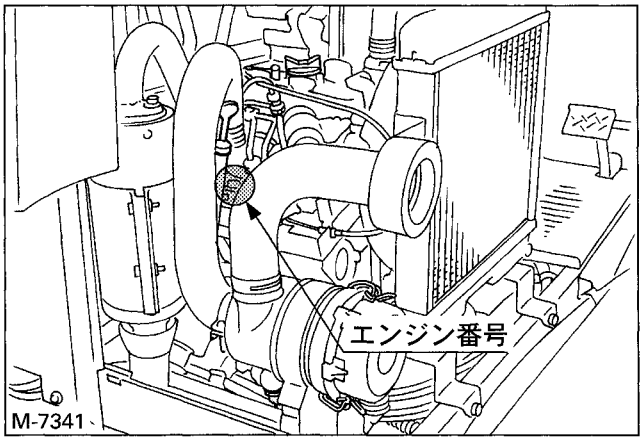
警 告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



農業機械の種類		コンバイン（自脱型）
農機型式名		クボタ
商品名		
区分		
車両型式名		クボタ
車台番号		
刈取条数		条
とう載機関	型式名	クボタ
	機関番号	
	最大出力	kW/ rpm
	無負荷最高回転速度	rpm
製造元		株式会社クボタ





■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切り後９年といたします。

ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

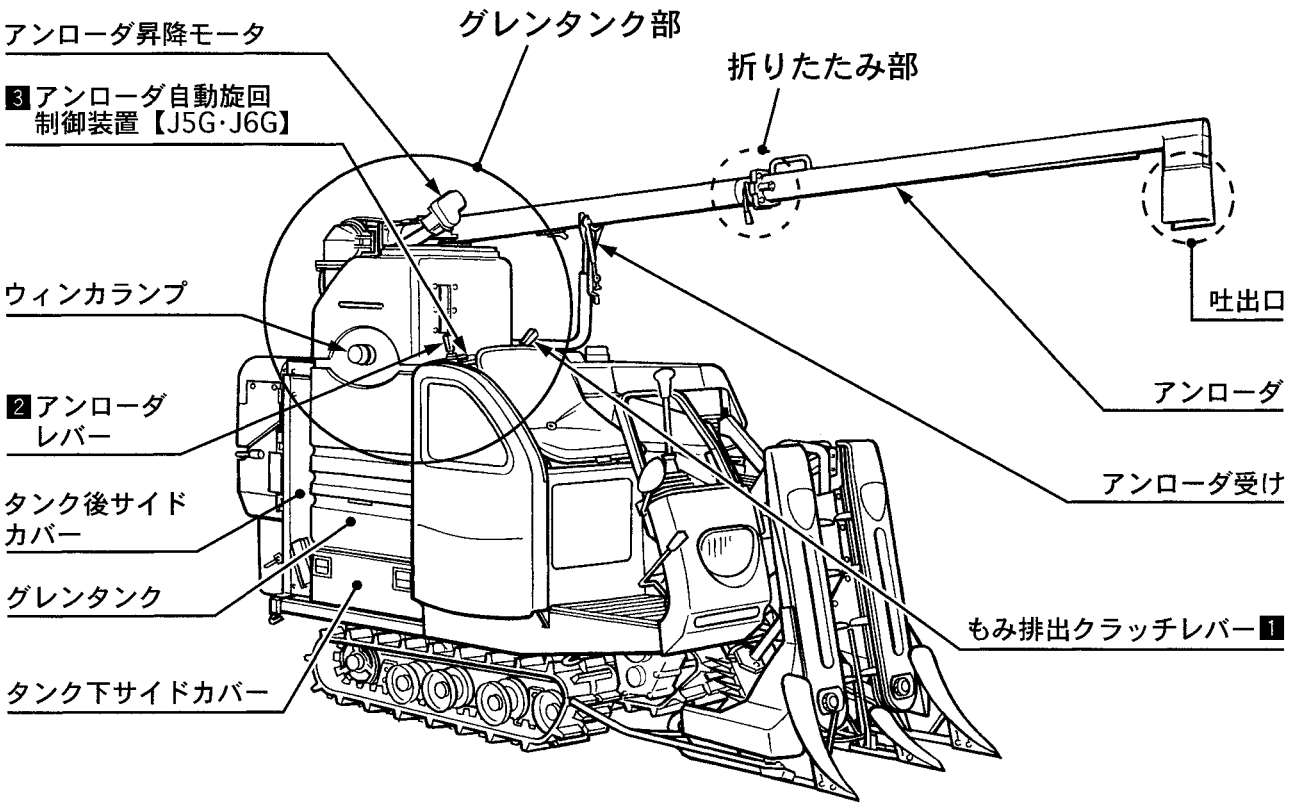
◆認定番号

安全鑑定の農機型式名と番号及び小型特殊自動車の車両型式名と番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

商　品　名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車		摘　要
			車両型式名	型式認定番号	
SR-J2G	クボタR9801G	23023	−	−	−
SR-J3G	クボタR9801G	23023	−	−	−
SR-J4G	クボタR9801G	23023	−	−	−
SR-J5G	クボタR9801G	23023	−	−	−
SR-J6G	クボタR9801G	23023	クボタC221	農2144	−
R216SG	クボタR9801G	23023	クボタC221	農2057	−

作業装置の名称と取扱い

作業装置の名称



●**グレンタンク部**…脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ

●**アンローダ**……グレンタンクからもみを排出する筒(折りたたみ式)

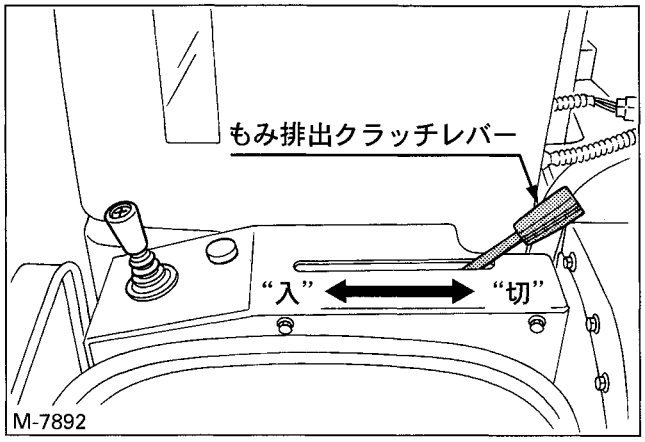
◆排出操作関係

1もみ排出クラッチレバー

グレンタンク内のもみの排出操作を行なうレバーです。

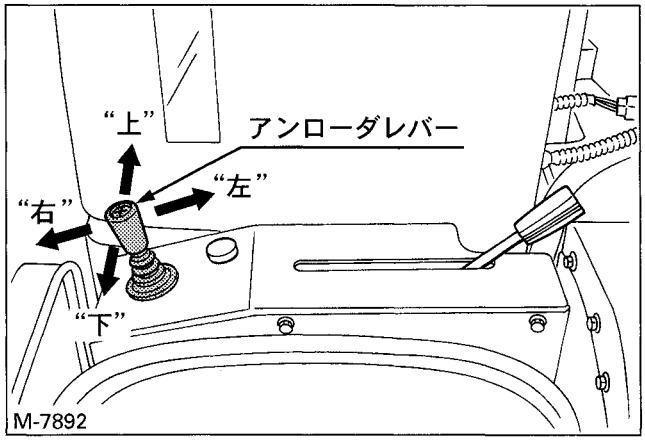
“入”……もみが排出されます。

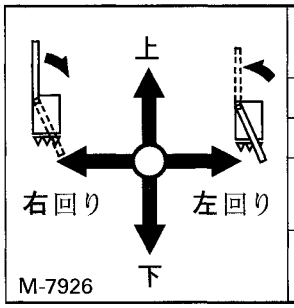
“切”……もみの排出が止まります。



2アンローダレバー

アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動操作レバーです。





レバーの操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
左	左回り(反時計方向)に旋回
右	右回り(時計方向)に旋回

補　足

＊左・右の旋回方向は，運転席に座って見たときです。

3アンローダ自動旋回制御装置【J5G･J6G】

アンローダ自動旋回制御装置は，自動・停止スイッチの操作により，アンローダが**収納位置↔排出位置**(機体後方)に自動旋回する装置です。

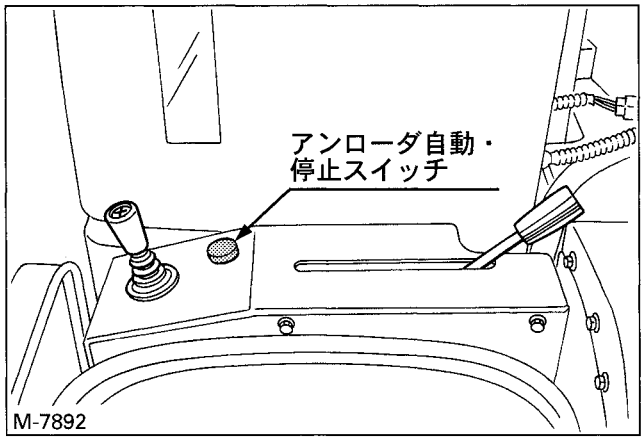
●アンローダ自動・停止スイッチ

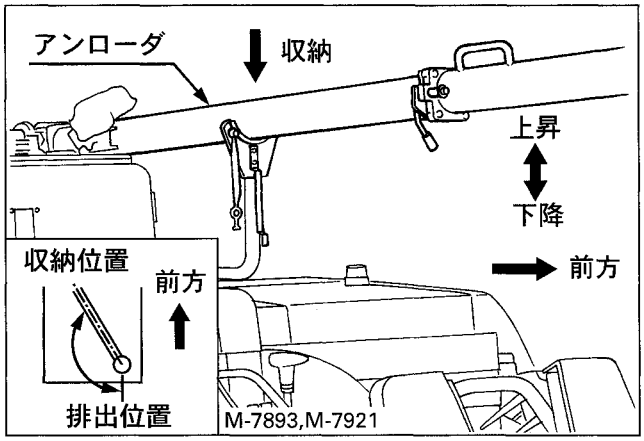
アンローダが下記位置にあるときにスイッチを押すと

(1)**収納位置**(アンローダ受けに収納状態)にあるときは，アンローダが上昇し排出位置まで自動的に旋回します。

(2)**自動上昇・旋回・下降途中**でスイッチを押すと，その位置で停止します。そのあと，もう一度スイッチを押すと

- **自動旋回途中・収納位置以外での自動上昇途中**の場合は，収納位置まで自動的にもどります。
- **収納位置からの自動上昇途中・収納位置への下降途中**の場合は，排出位置まで上昇・旋回をします。





重　要

＊エンジン停止中でもメインスイッチ**“入”**の位置で操作できますが、長時間エンジンを停止した状態で操作すると**バッテリ上り**の原因となりますので，操作するときは，エンジンを必ず始動して行なってください。

移動走行と輸送

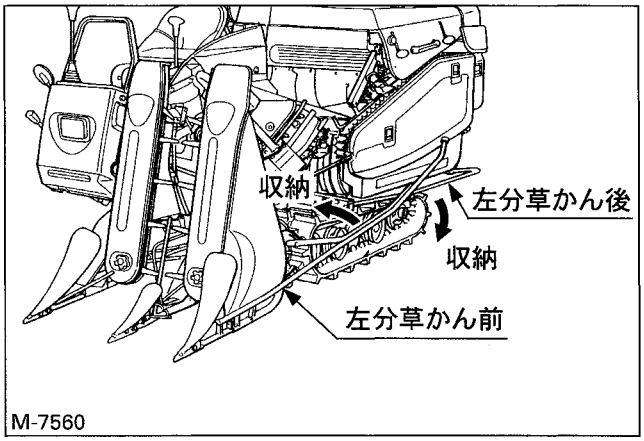
移動走行と輸送について

■走行前の準備

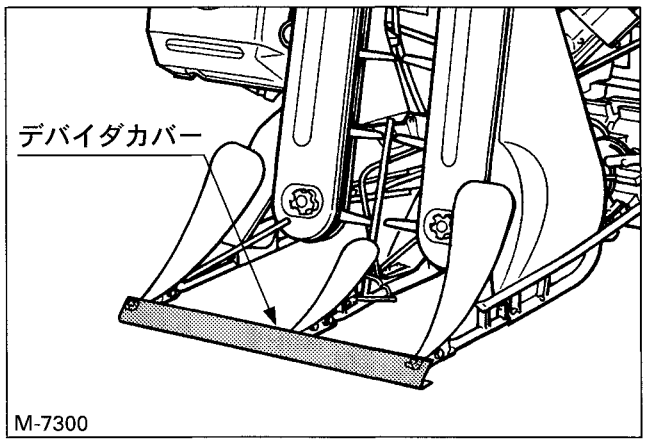
注 意

＊水平で平たんな場所で行なってください。
＊もみはすべて排出してください。
＊準備が終われば，カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。
＊手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。
＊アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。

❶グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(**もみの排出のしかた**の項参照)
❷左分草かん前・後を**収納**します。



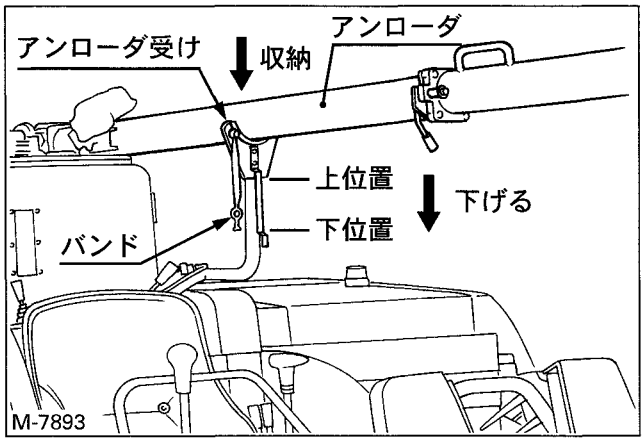
❸デバイダカバーを取付けます。

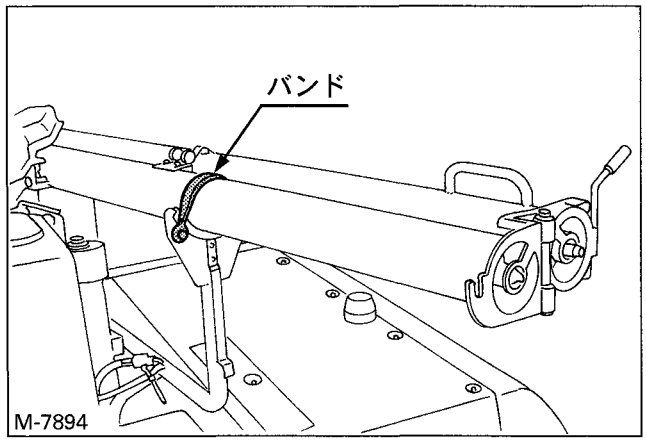


補 足

＊右側デバイダは標準の位置にしてください。(別冊取扱説明書の**作業に合わせた各部の調節のしかた**の項参照)

❹アンローダ受けを下位置にしたあと，アンローダをアンローダ受けに収納します。そのあと，アンローダを折りたたみ，バンドで固定します。(**アンローダ受け上下調節のしかた，アンローダの折りたたみかた・伸ばしかた**の項参照)





補 足

＊アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

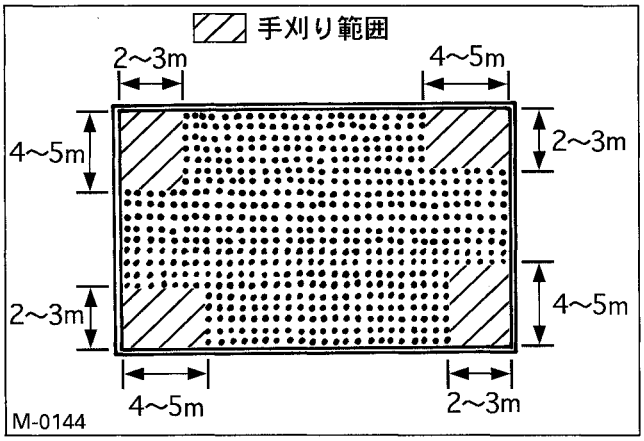
❺別冊の取扱説明書(ホッパ仕様)の**走行前の準備**の❺,❻,❼の作業を行ないます。

収穫作業のしかた

ほ場の準備

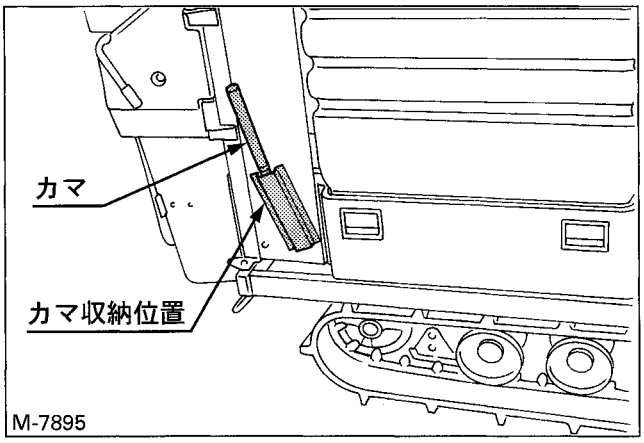
■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四すみで旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲(面積)の手刈り(枕刈り)をします。



補　足

＊カマの収納場所は下図の位置にあります。



重　要

＊あぜがコンクリートのとき乗上げるとクローラを切損する場合がありますので，あぜぎわ２条を残してください。

コンバインの準備

警　告

＊平たんな場所に置き，エンジンは必ず停止してください。

＊取外したカバー類は必ず取付けてください。

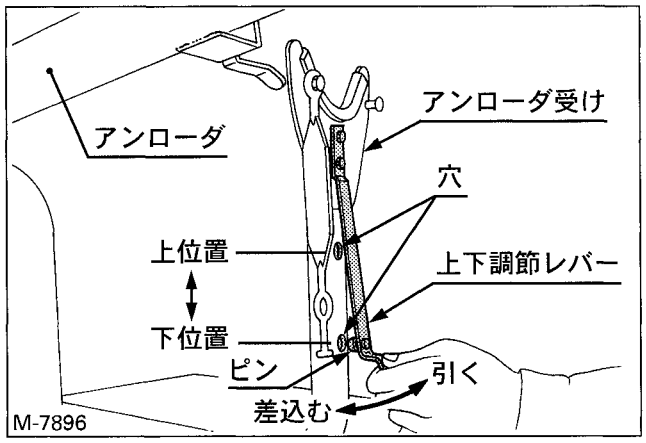
■アンローダ受け上下調節のしかた

注　意

＊手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。

❶アンローダをアンローダレバーで上昇させます。

❷上下調節レバーを引いてアンローダ受けを**上位置⇔下位置**に変更します。変更後は，上下調節レバーのピンを穴に必ず差込んでください。



重　要

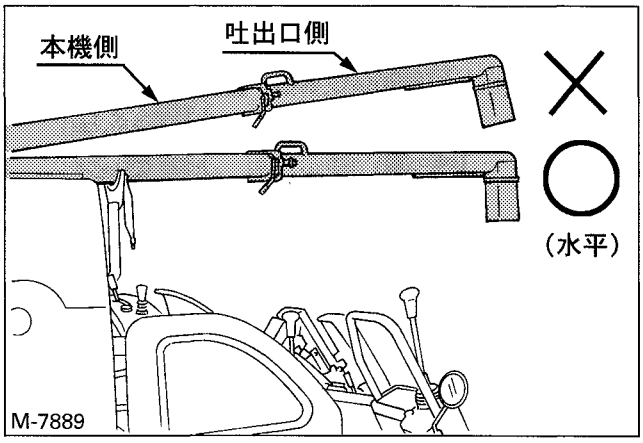
＊上下調節レバーは，引き過ぎると変形してピンが穴に入らなくなるおそれがあります。

■アンローダの折りたたみかた・伸ばしかた

注 意

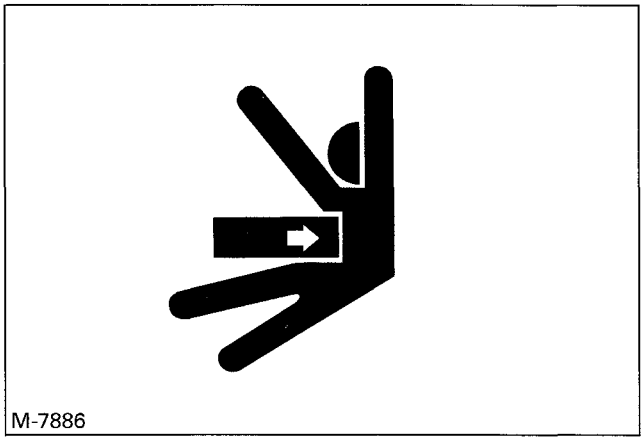
＊水平で平たんな場所でエンジンを必ず停止させて行なってください。

＊機体やアンローダが傾いていると，吐出口側のアンローダが自然に動きケガをするおそれがありますので，アンローダは必ず水平状態にしてください。



＊アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。

＊ロックがされていないと吐出口側のアンローダが不意に動いてケガをするおそれがあります。



◆折りたたみかた(移動走行時・長期格納時)

注 意

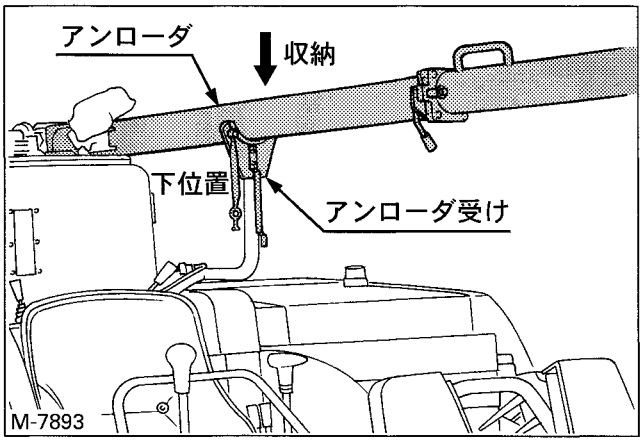
＊あぜ越え，移動走行時およびトラックで輸送するときは，アンローダが人や物にぶつかるおそれがあるので必ず折りたたんでください。

❶アンローダ受けを**下位置**にします。(**アンローダ受け上下調節のしかた**の項参照)

❷メインスイッチを**“入”**位置にします。

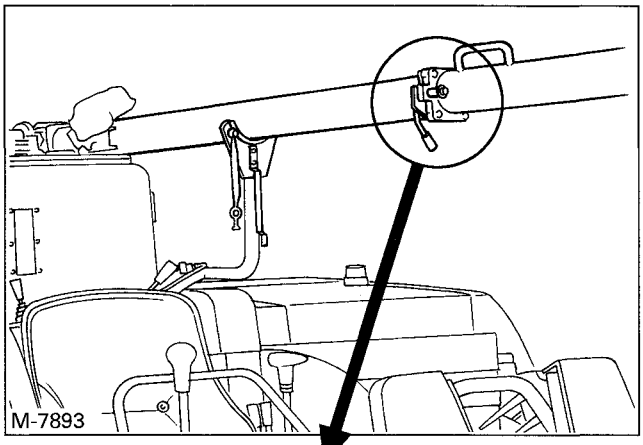
❸アンローダ内にもみが残っているときは，一度アンローダを上昇させます。

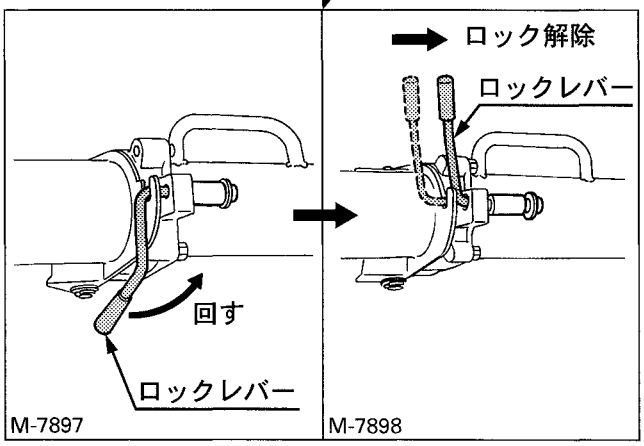
❸アンローダレバーを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。



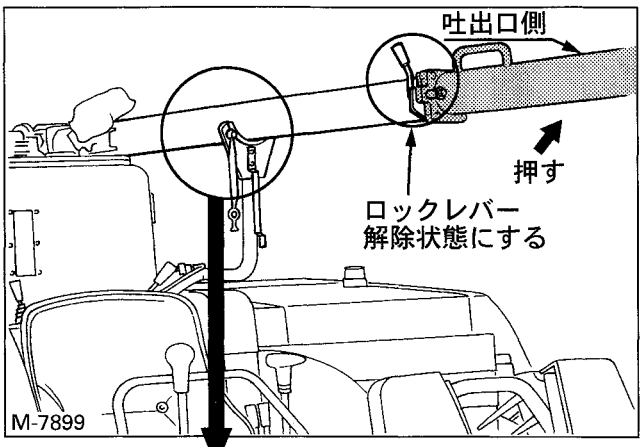
❹アンローダを折りたたみます。

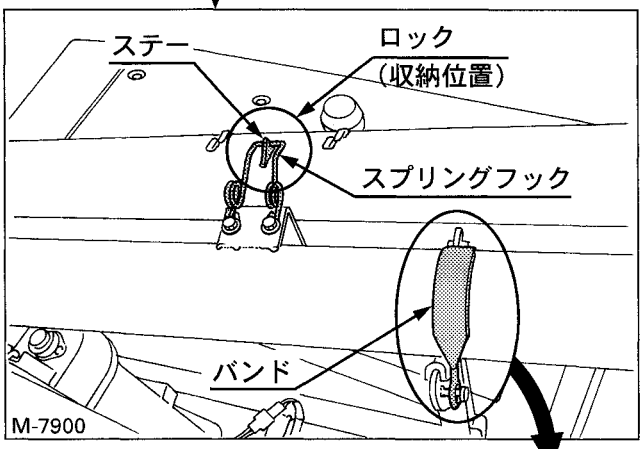
(1)ロックレバーを上側に回して**ロック解除**の状態にします。

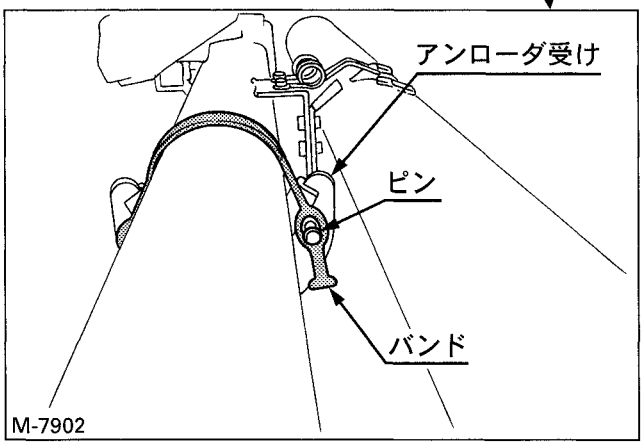




(2)吐出口側のアンローダを左側に押して収納位置にロックします。そのあと，バンドをアンローダ受けのピンに引掛けてアンローダを固定します。







補　足

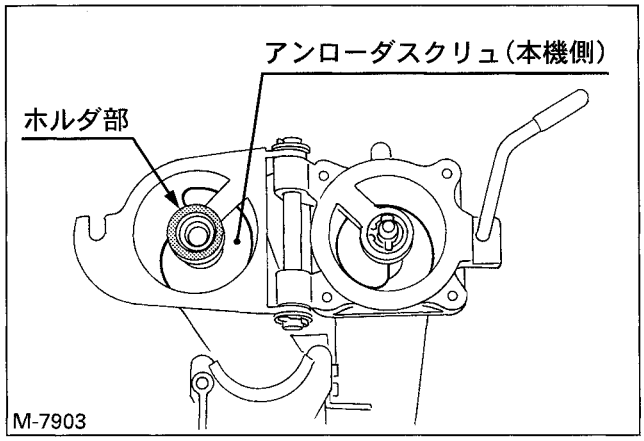
＊収納位置で，ステーにスプリングフックがロックされているか確認してください。

＊もみの排出途中で排出を止めたとき，アンローダ内に残っているもみがこぼれるので，アンローダは折りたたまないでください。

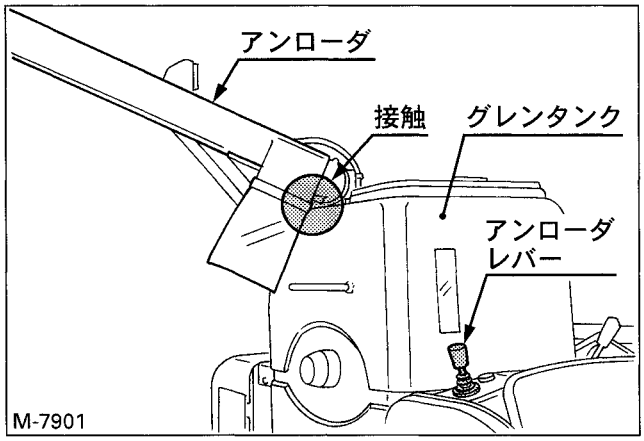
重　要

＊アンローダを折りたたんだ状態で下記の操作は行なわないでください。機械の破損や故障の原因となります。

●エンジンを始動した状態でもみ排出クラッチを**"入"**位置にしないでください。**"入"**位置にすると，アンローダスクリュ(本機側)が回転し，ホルダ部が損傷します。

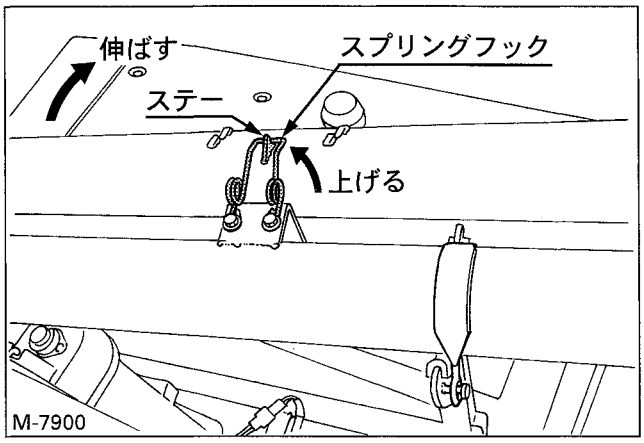


●アンローダレバーを操作して，左旋回を続けると下図のようにアンローダの先端部がグレンタンクに接触し，グレンタンクが損傷します。



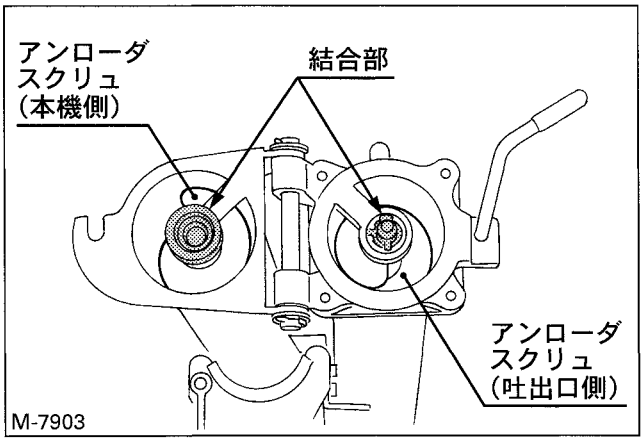
◆伸ばしかた(作業時)

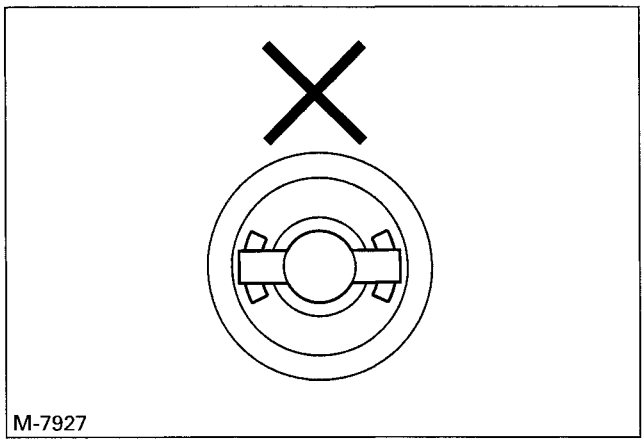
❶吐出口側のアンローダのロックを解除します。スプリングフックを上げてステーより外します。そのあと，吐出口側のアンローダを伸ばします。



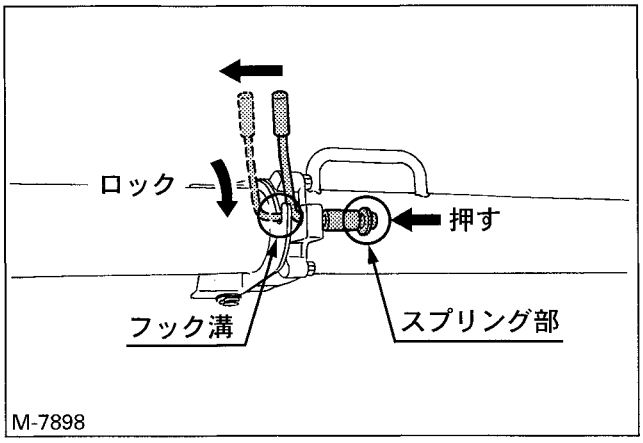
補　足

＊アンローダを伸ばすとき，アンローダスクリュの本機側と吐出口側の結合部が下図の✕位置にあると，折りたたみ部を閉じることができませんので位置をずらしてください。





❷ロックレバーで本機側と吐出口側のアンローダを固定します。このとき，スプリング部を指で押して，フック溝にレバーを通したあと，下側に回してロックします。



❸バンドを外します。

❹メインスイッチを**"入"**位置にしたあと，アンローダレバーでアンローダを上昇させます。

❺アンローダ受けを**上位置**にします。

❻アンローダレバーでアンローダを収納します。

■刈取作業の手順

注 意

＊小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。

＊夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯(オプション)を必ず点灯してください。

重 要

＊作業中エンジン回りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。
防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。

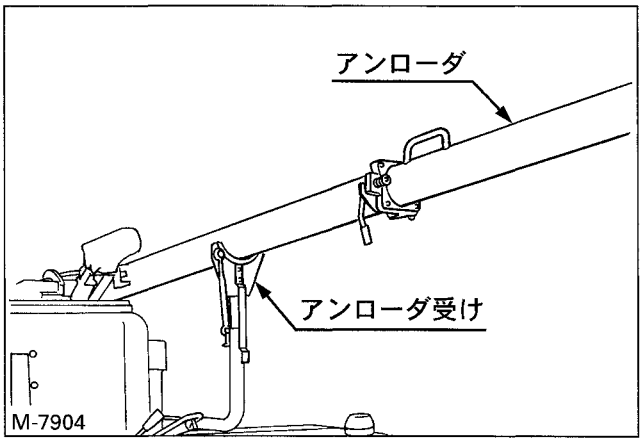
＊コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

＊湿田で作業する場合特に一方刈りで何回も後進するときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。

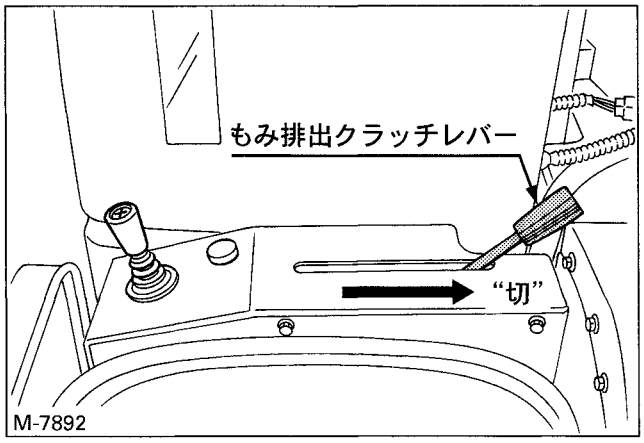
❶ほ場に入って，水平で平たんな場所でコンバインを停止したあと，エンジンを止めます。

❷アンローダを伸ばして**作業状態**にします。(**アンローダの折りたたみかた・伸ばしかた**の項参照)

❸バンドを取外してアンローダ受けを**上位置**(作業位置)にしたあと，アンローダをアンローダ受けに収納します。(**アンローダ受け上下調節のしかた**の項参照)



❹もみ排出クラッチレバーが**“切”**位置にあるか確認し，**“入”**位置に入っているときは**“切”**位置にします。



❺エンジンを始動します。

❻別冊の取扱説明書(ホッパ仕様)の**刈取作業の手順**の❷～❾を行ないます。

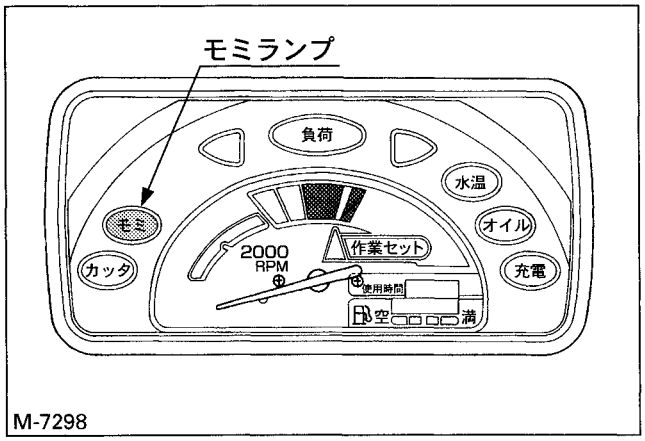
❿作業が終わると，刈取クラッチレバーを**“切”**位置にし，脱こくが終わりもみが全てグレンタンク内に入ったことを確認して，脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にし，エンジンを停止します。

■もみの排出のしかた

注 意

＊コンバインを必ず停止してください。
＊吐出口に手は入れないでください。
＊手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。
＊アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。

❶タンクが満杯になると，メータユニットの**“モミ”**ランプが点滅すると同時にブザーが鳴ります。



重 要

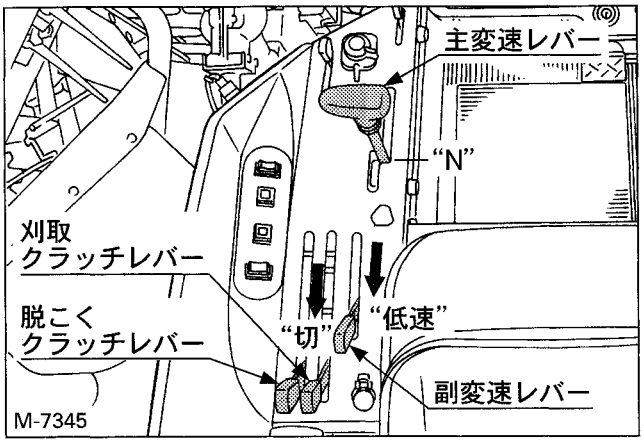
＊ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

補 足

＊ブザーを止めるときは，ホーンスイッチを約1.5秒間押してください。ブザーは停止しても，**“モミ”**ランプは点滅したままの状態です。**“モミ”**ランプはもみを排出すると消灯します。

❷ブレーキペダルを踏込んで走行を停止したあと，主変速レバーを**“N”(中立)**位置にします。

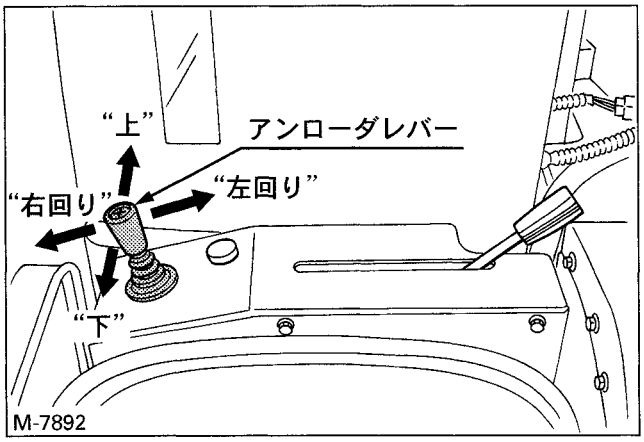
❸約20～30秒待ったあと，脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にして，刈取部と脱こく部を停止し，所定の排出位置に移動します。

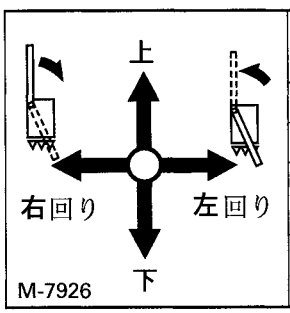


補 足

＊脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にすると同時に，連動して刈取クラッチレバーも**“切”**位置に動き刈取部が停止します。

❹アンローダレバーを操作してアンローダを**排出位置**に移動します。

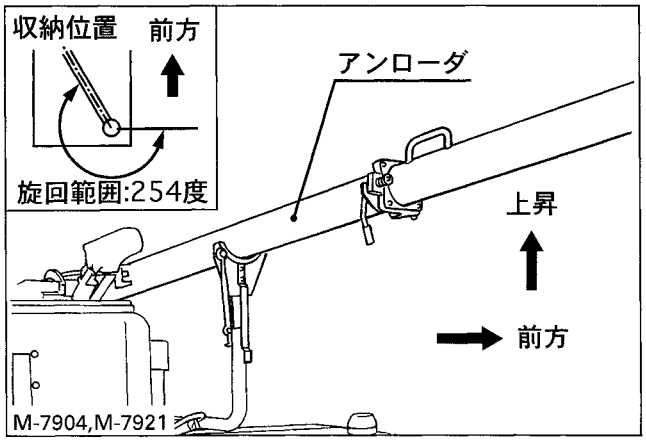




レバーの操作方向	アンローダの動き
上	上昇
下	下降
左	左回り(反時計方向) に旋回
右	右回り(時計方向) に旋回

補 足

＊左・右の旋回方向は，運転席に座って見たときです。

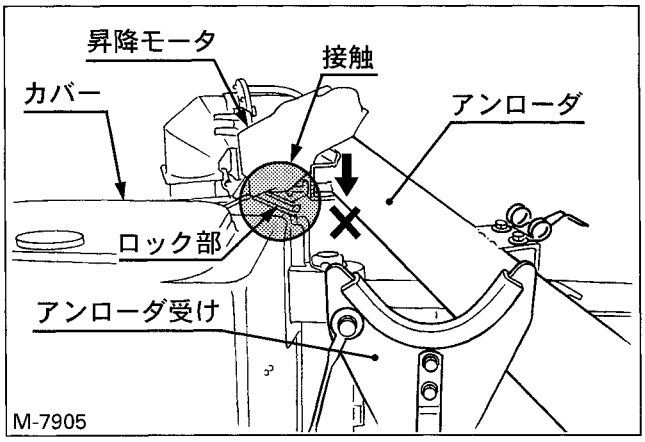


重　要

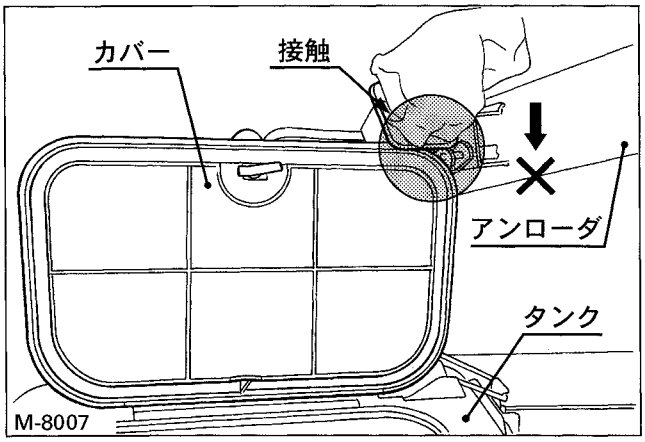
＊走行しながら，アンローダの旋回操作を行なわないでください。故障の原因になります。

＊アンローダは，必ずアンローダ受けより上げてから，旋回を行なってください。

＊アンローダ受け付近でアンローダを水平状態より下げると，昇降モータがタンクロック部に接触し，破損の原因となります。



＊グレンタンクのカバーを開けたままで，アンローダをアンローダ受けに収納しないでください。カバーとアンローダが当たり，カバー及びタンクが破損することがあります。



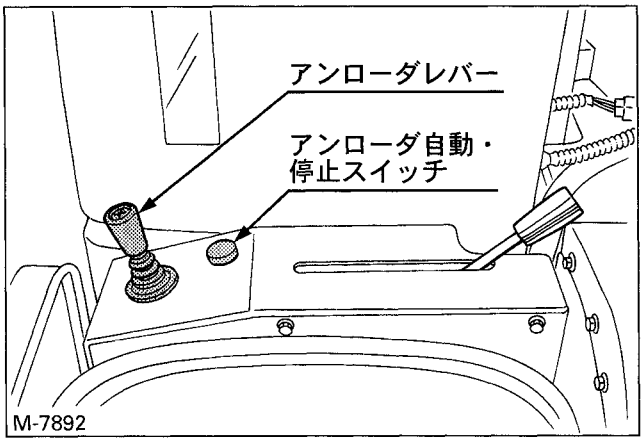
＊エンジン停止中でもメインスイッチ**“入”**の位置で操作できますが，長時間エンジンを停止した状態で操作すると**バッテリ上り**の原因となりますので，操作するときは，エンジンを必ず始動して行なってください。

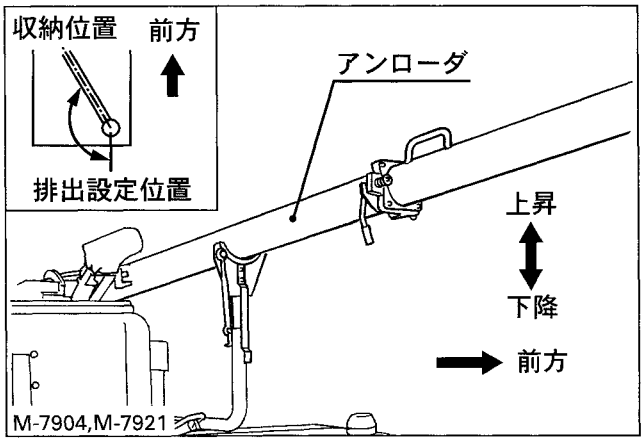
補　足

＊コンバインが傾いている傾斜地などではアンローダの動きが遅くなるときがあります。

●自動・停止スイッチの操作【J5G･J6G】

収納位置にあるときに自動・停止スイッチを押すとアンローダは上昇し，排出設定位置(機体後方)まで自動的に旋回します。





重　要

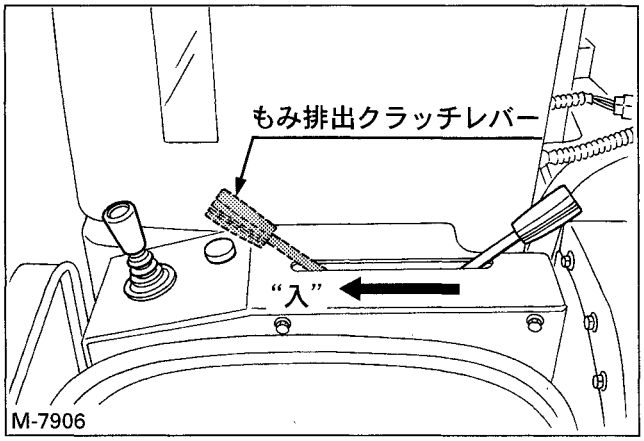
＊自動・停止スイッチを押す前に，アンローダの可動範囲に障害物がないか確認してください。

補　足

＊自動制御作動中に，自動・停止スイッチを押すかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。停止状態から再度自動・停止スイッチを押すと，アンローダは排出位置又は，収納位置に戻ります。

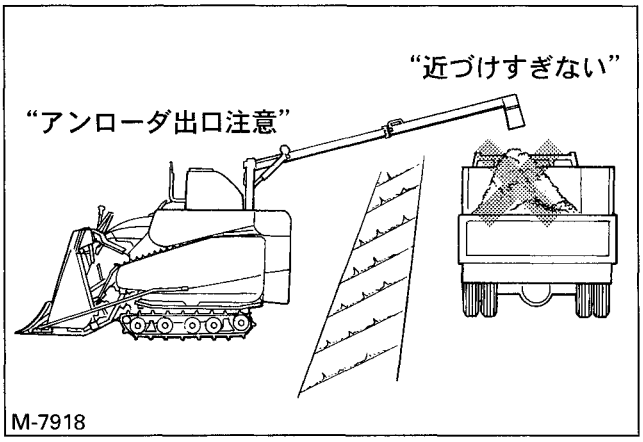
＊自動制御作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

❺もみ排出クラッチレバーを**"入"**位置にして，もみを排出します。



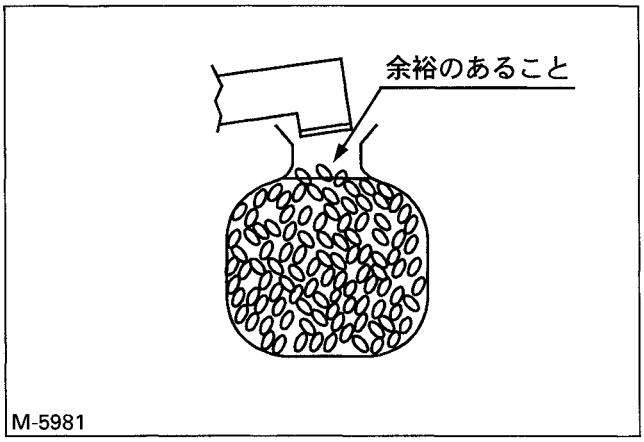
重　要

＊吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。



＊アンローダには、絶対物を吊るさないでください。

＊アンローダで袋詰め作業を行なうときは，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると，駆動系統の故障の原因になります。



❻排出が終わると，排出クラッチレバーを**"切"**位置にし，アンローダをアンローダ受けに収納します。

補　足

＊アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

●自動・停止スイッチの操作【J5G･J6G】

旋回範囲内(排出位置など)にあるときに自動・停止スイッチを押すとアンローダは上昇し，収納位置に戻ります。

補　足

＊自動制御でアンローダが収納位置に戻った直後に，自動・停止スイッチを押しても10秒間は自動制御が作動しません。10秒程度待ってから自動・停止スイッチを押してください。

＊自動制御作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

■メータユニットによる異常と処置

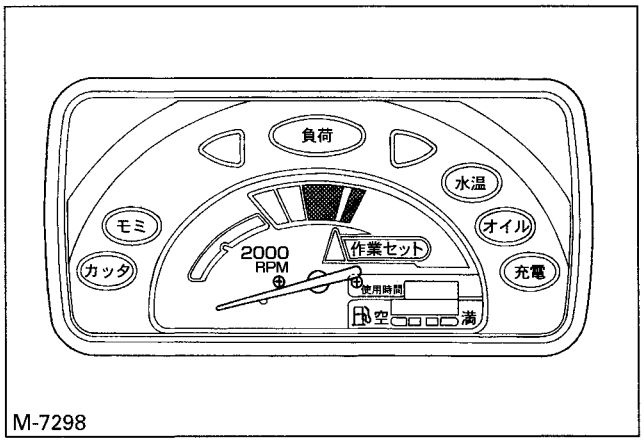
警 告

＊各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。
＊各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注 意

＊エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

ランプが異常箇所を表示したときは，下表の処置を行なってください。



M-7298

ランプ	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示	ブザー			
モミ	点滅	○	●グレンタンクのもみが満杯です。 ●そのまま作業を続けると… 1番スクリュが詰まります。	●刈取作業を中止し，もみを排出します。 ＊ブザーはホーンスイッチを1.5秒間押すと止まります。 ●もみを排出します。	10

重 要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡してください。

メンテナンス

各部のオープンと脱着のしかた

警　告

＊平たんで安全な場所で，エンジンを必ず停止してから行なってください。

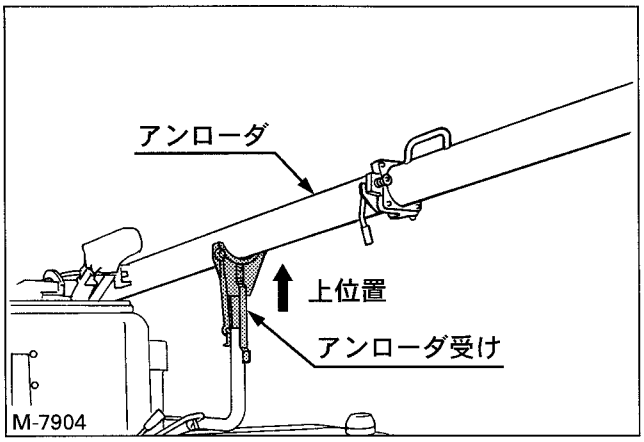
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

■グレンタンクの取外し，取付けかた

◆取外しかた

❶グレンタンク内に残っているもみをすべて排出します。(**もみの排出のしかた**の項参照)

❷アンローダ受けを**上位置**にし，アンローダを収納します。

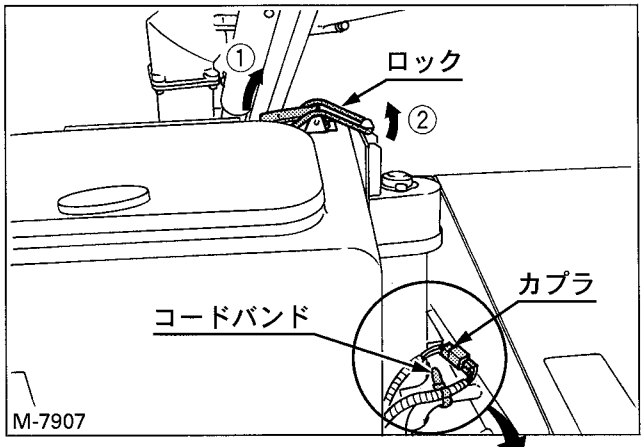


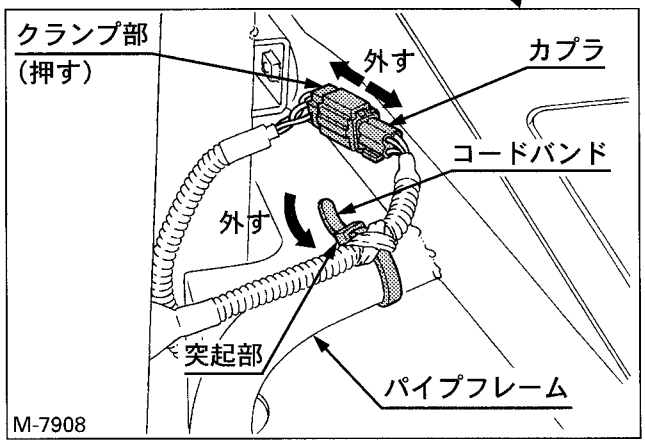
❸カプラを取外します。

(1)突起部を押してコードバンドを外します。

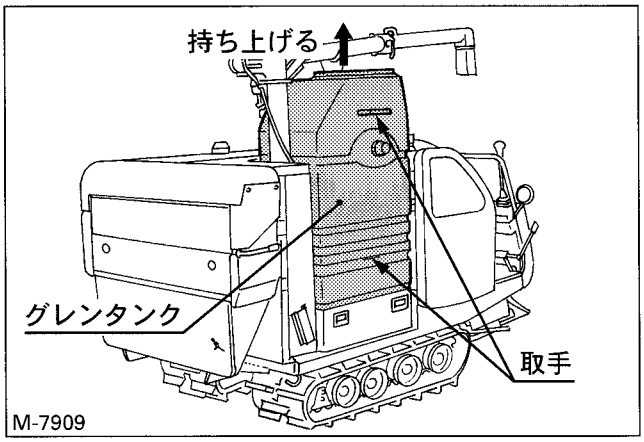
(2)クランプ部を押して，カプラを外します。

❹タンクのロックを外します。





❺グレンタンクの取手を持ち，タンクを手前に引きながら持ち上げて取外します。



◆取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けます。

重　要

＊タンクは確実に取付けてください。

補　足

＊コードバンドはパイプフレームと共締めしてください。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警 告

＊エンジンを必ず止めてください。
＊取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
＊各スクリュなどの回転物には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注 意

＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。

重 要

＊グレンタンクが汚れて洗う場合は，中性洗剤で洗ってください。
＊水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
＊掃除口を閉じるときは，掃除口にこく粒の付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを忘れるとこく粒が飛散します。
＊機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているとこく粒が機内に付着して残留こく粒が多くなります。
＊湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてください。
＊取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

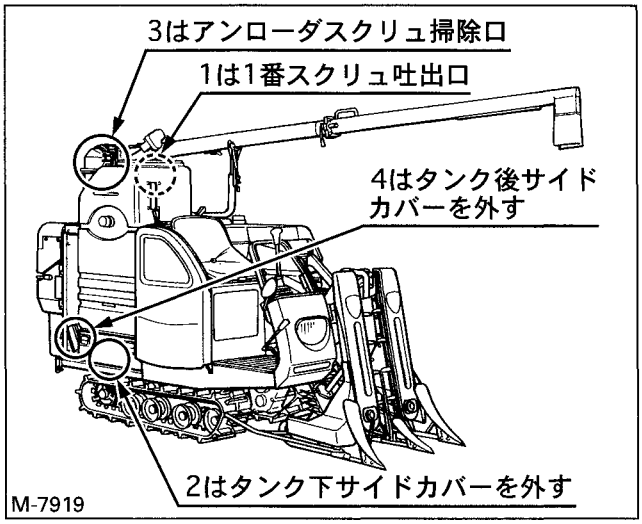
■掃除のしかた

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆掃除のしかた

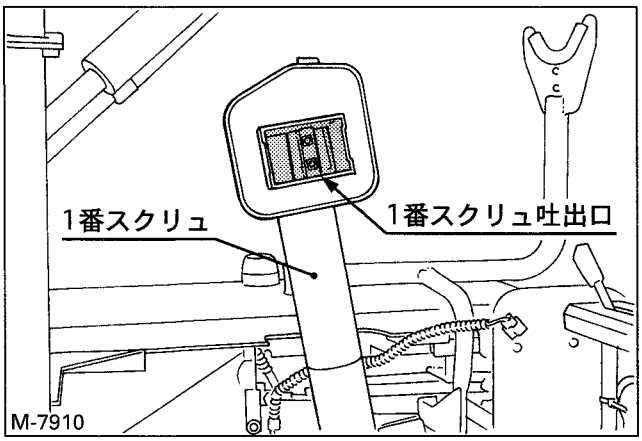
刈取作業が終わり，もみの排出がすべて終わったあと脱こく部，グレンタンク部を約３分間空運転します。そのあと，脱こくクラッチ，もみ排出クラッチを切りエンジンを止めます。
掃除をするときには，各部をオープン又は，掃除口を開いてください。

◆掃除箇所



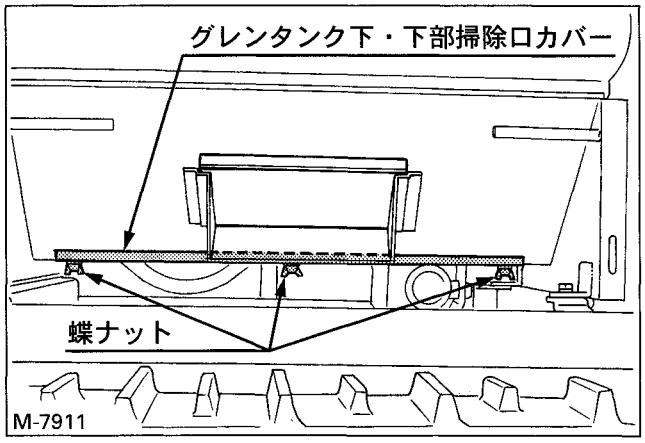
1.1番スクリュー吐出口

グレンタンクを取外します。



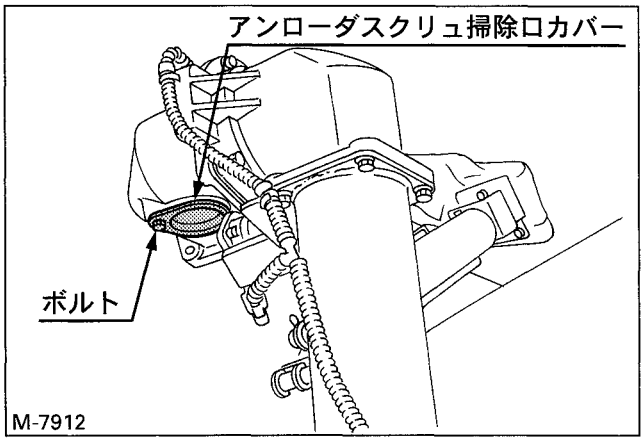
2. グレンタンク下・下部掃除口

蝶ナット３本を外して掃除口のカバーを取外します。



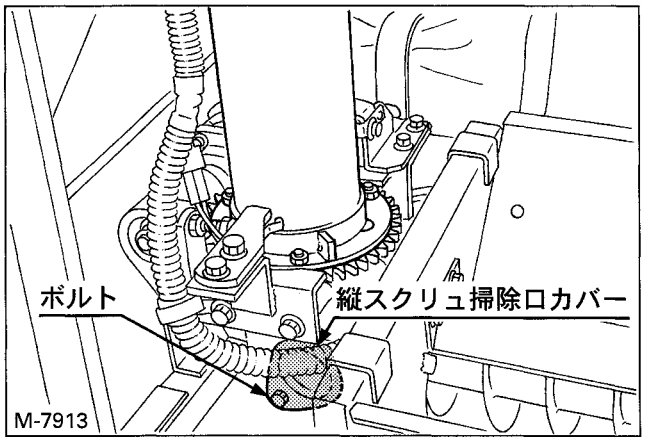
3. アンローダスクリュ掃除口

ボルトを外して掃除口カバーを取外します。



4. 縦スクリュ掃除口

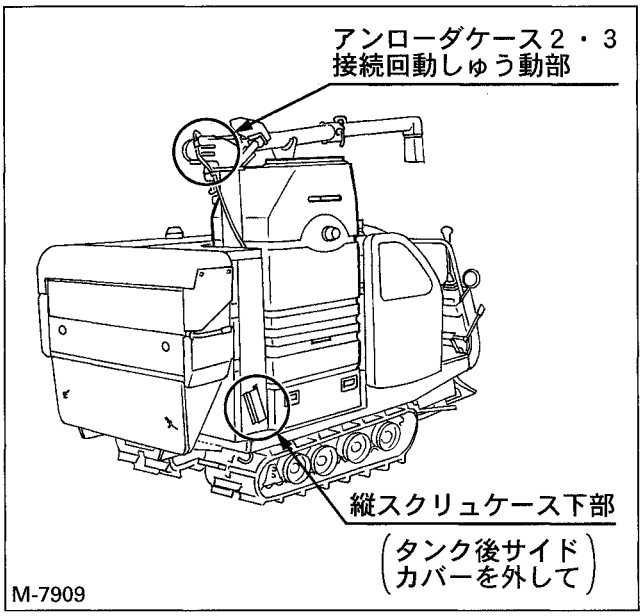
ボルトを外して掃除口カバーを取外します。



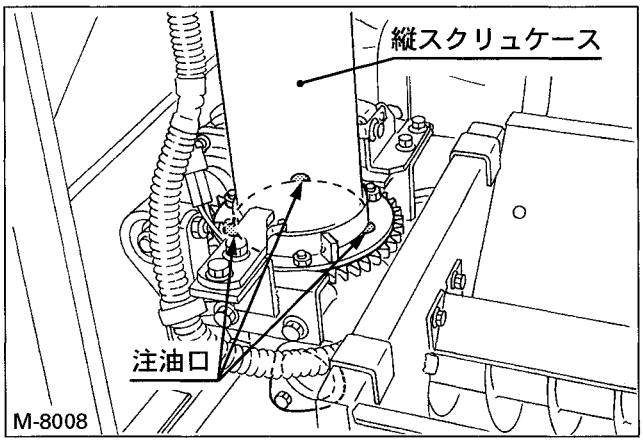
■注油のしかた

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

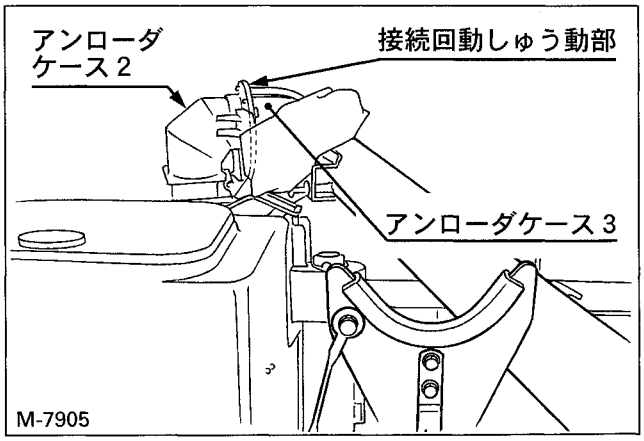
◆注油箇所



●縦スクリュケース下部（注油）



●アンローダケース２・３回動しゅう動部（グリース塗布）



定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警　告

＊各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を“切”にして，回転部を止めてから作業をしてください。

＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊点検・作業するときは，刈取部を一番下まで降した状態で駐車ブレーキを掛けてください。

補　足

＊専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。

＊点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早目の点検をお願いします。

■定期点検一覧表

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　　▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目		時間 点検	時間 交換	点検・交換時期 アワメーター表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	それ以降 点検	それ以降 交換	2年ごと	参照ページ
グレンタンク部	グレンタンク駆動ベルト	調整	交換	●		○		○	△/●(270)		○		○	△/●(520)	20又は，100時間ごと	250時間ごと		19 ☆
	もみ排出クラッチワイヤ	調整	交換		●		○		△	●		○		△	50又は，100時間ごと	250時間ごと		19
	底スクリュ軸	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	縦スクリュ軸	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	水平スクリュ軸	—	交換						△					△	—	250時間ごと		☆
	吐出口ブーツ	—	交換	(注1：破損しているとき交換)											—	注1		18

重　要

＊各ベルト・ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整(●印)を行なってください。

■給･注油(水)点検一覧表

種類	点検箇所		処置	点検・交換時期(アワメーター表示時間)		容量・規定量(g)	種類	参照ページ
				点検	交換			
グリース	グレンタンク部	グレンタンク駆動ケース	補給	分解時	—	25	クボタスペアグリース	☆
		アンローダケース1				20		
		アンローダケース2				20		
		アンローダケース3				20		
		アンローダケース2・3接続回動しゅう動部				適量		

＊参照ページに☆印のある整備項目については，購入先又は，整備工場で行なってください。

重 要

各部への給油と交換

＊点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

＊使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，指定の**“クボタ純オイル”**を必ず使用してください。

＊燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

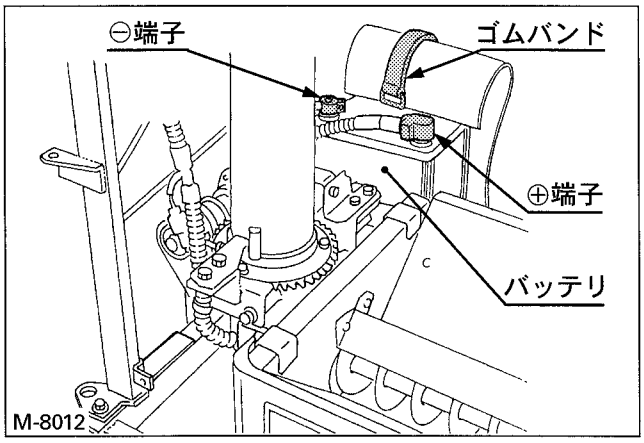
■バッテリの点検・交換

❶グレンタンクを取外します。

❷別冊の取扱説明書(ホッパ仕様)の**“バッテリの点検・交換”**の項を参照してください。

◆バッテリの取外し，取付けかた

バッテリは下図の位置にあります。



■吐出口ブーツの点検・交換

アンローダ先端部の吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

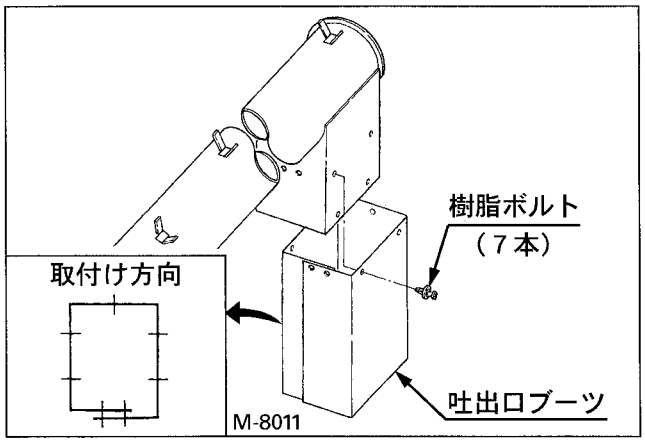
◆交換

❶ブーツを取付けている樹脂ボルト7本を外します。

❷破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

補 足

＊ブーツを取付けるとき，ブーツの重なりの方向を間違えないでください。



重 要

＊ブーツは必ずクボタ純正のものを使用してください。

■もみ排出クラッチワイヤ及びグレンタンク駆動ベルトの点検・調整

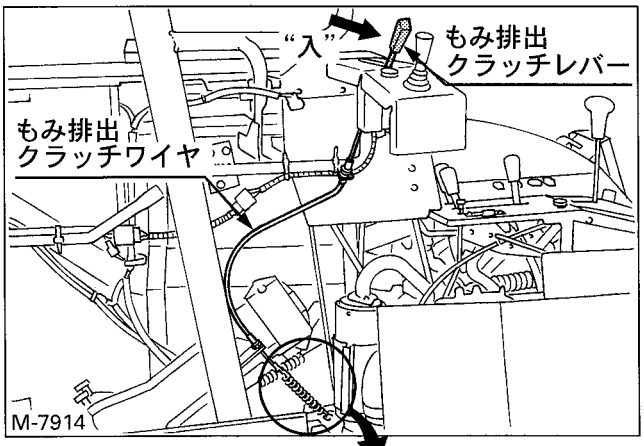
◆もみ排出クラッチワイヤの点検・調整

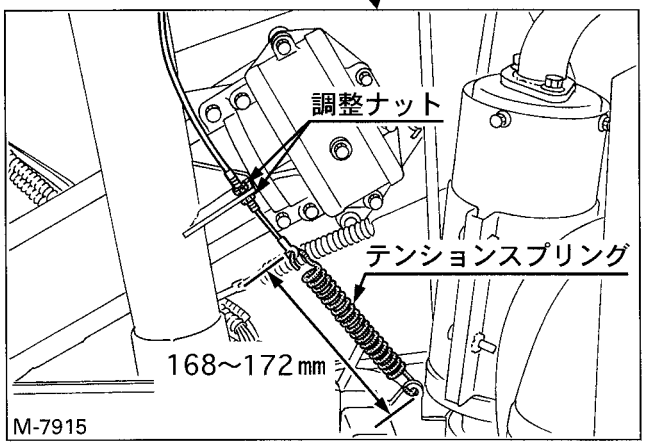
もみ排出クラッチレバーが**"入"**位置の状態で，テンションスプリングの長さを168～172㎜に調整します。

❶グレンタンクを取外します。(**グレンタンクの取外し・取付けのしかた**の項参照)

❷もみ排出クラッチレバーを**"入"**位置にしたあと，調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。

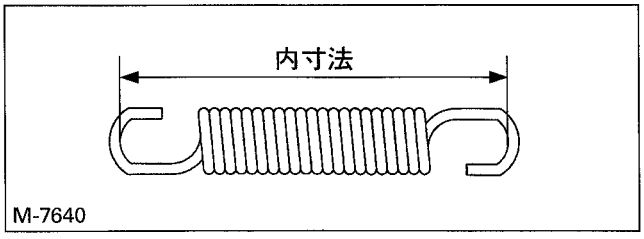
❸調整ナット２個を締付けたあと，グレンタンクを取付けます。





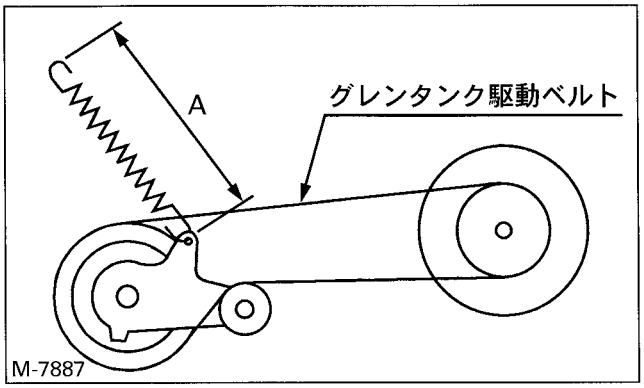
補　足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



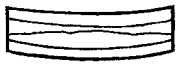
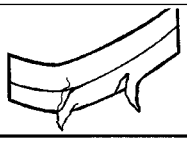
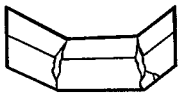
◆グレンタンク駆動ベルトの点検

適応機種	サイズ	張り調整 ※テンションスプリング取付け長さ(㎜)	
全機種	特A40	A	168～172

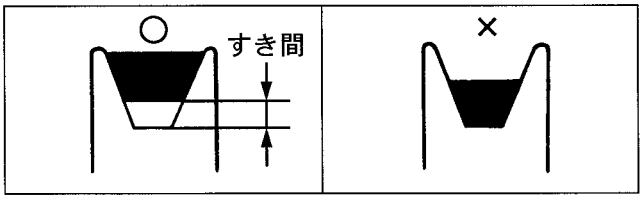


ベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

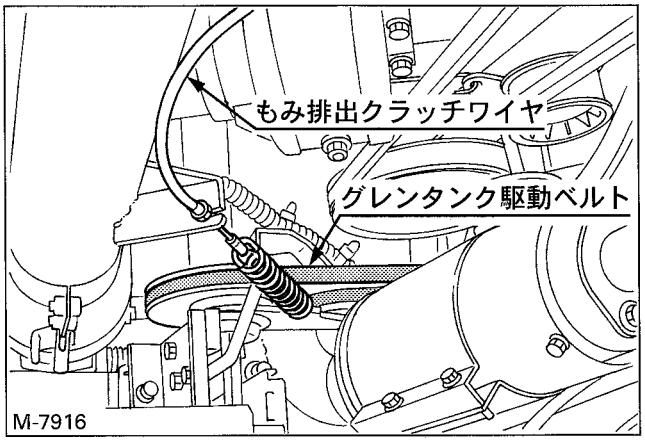


上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して行なってください。

重　要

＊ベルトは必ずクボタ純正のものを使用してください。

●点検箇所



■電気配線とヒューズの点検・交換

◆電気配線の点検

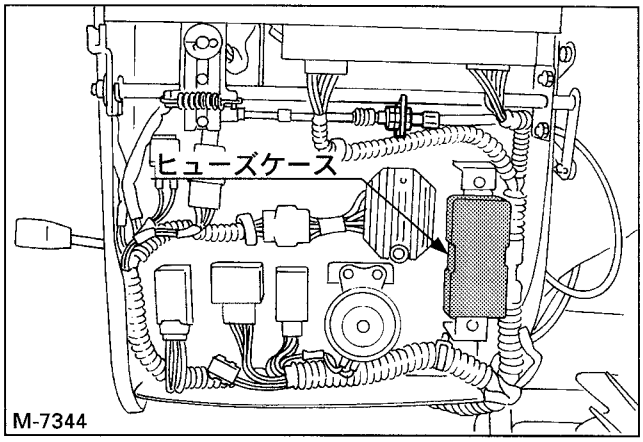
配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなくショート(短絡)，ろう電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先かJA農協で点検・修理してください。

◆ヒューズの点検・交換

❶フロントカバーを外します。
❷ヒューズケースのふたを外します。
❸ヒューズを外します。
❹切れたものと同容量のヒューズと交換します。



受けもっている回路	容量	備考
マイコン，AES	20A	
レギュレータ，ホーン，燃料ポンプ	10A	
こぎ深さモータ	20A	
ライト，フラッシャ	15A	
方向ソレノイド	20A	J4G·J5G·J6G各HD仕様
マイコン	10A	
刈取りスライドモータ	20A	J3G·J4G·J5G·J6G·R216SG
結束機	20A	結束機付
アンローダ旋回モータ	20A	
アンローダ昇降モータ	20A	

補　足

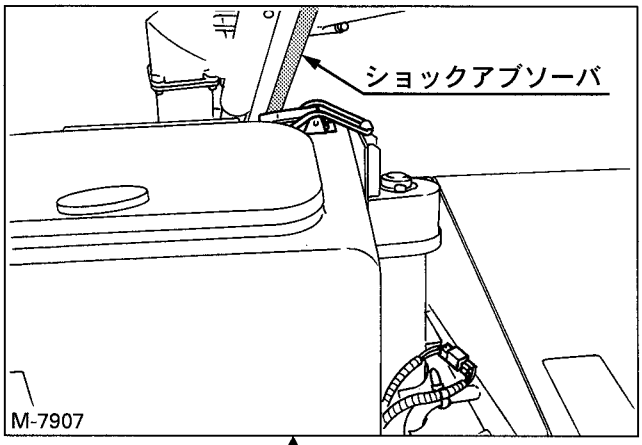
＊予備ヒューズはケースの裏側に，10A，15A，20Aが各1本入っております。

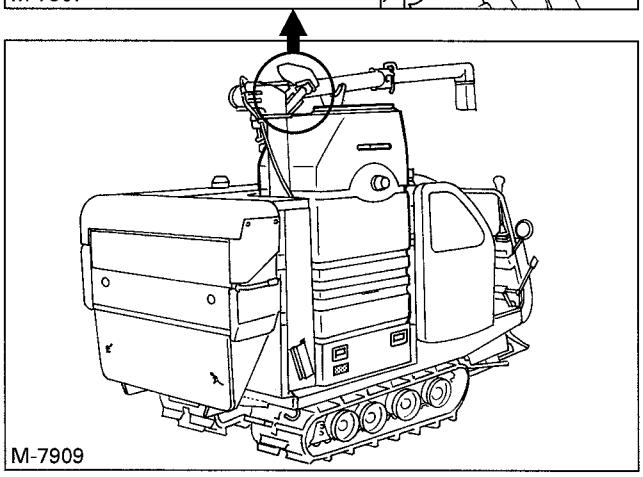
長期格納のしかた

長期格納するときは，必ずアンローダ受けにアンローダを収納してください。

補　足

＊アンローダの位置がアンローダ受けより下の位置で長期放置しますと，ショックアブソーバのガス抜けが起こりアンローダの上昇ができなくなるおそれがあります。





コンバインの不調と処置

もみが詰まったときの処置

注 意

＊平たんな場所に置き，エンジンは必ず停止してください。

＊取外したカバー類は必ず取付けてください。

重 要

＊処置しても直らない又は，機械の故障や変形などで処置ができないときは，購入先へ連絡してください。

もみが排出されなくなったときは，以下の手順で作業及び処置を行なってください。

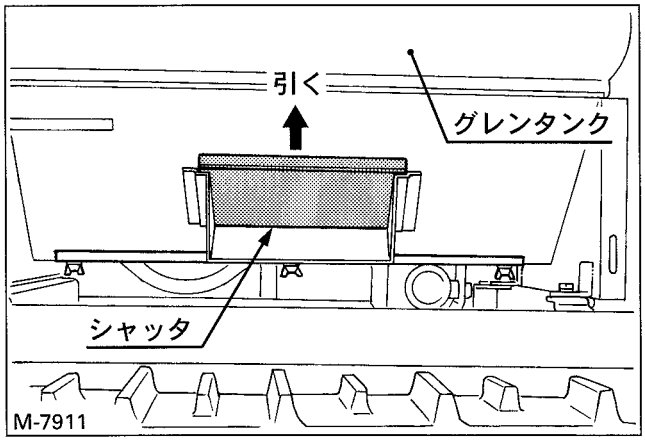
❶排出クラッチレバーを**“切”**位置にします。

❷アンローダレバーでアンローダを一度最上昇位置にします。

❸アンローダ受けを下位置にしたあと，アンローダを収納します。

❹平たんな場所に移動したあと，エンジンを停止します。

❺グレンタンク内にもみが残っているときは，もみを必ず取出してください。取出すときは，タンク下サイドカバーを取外したあと，グレンタンク下側にあるシャッタを上側に引いてください。



1.もみ排出クラッチワイヤ及びグレンタンク駆動ベルトの点検と処置

(1)グレンタンク駆動ベルトの摩耗によりスリップしているときは，ベルトの状態を確認します。摩耗量が多いときやき裂やひびが入っているときは交換してください。

(2)もみ排出クラッチワイヤのテンションスプリングの長さを確認します。規定値より伸びているときは調整を行なってください。(**メンテナンスのもみ排出クラッチワイヤ及びグレンタンク駆動ベルトの点検・調整**の項を参照してください。)

2.アンローダ及び縦スクリュの点検と処置

アンローダの掃除口を点検し，異物がかみ込んでいるときは取除きます。(**メンテナンスの掃除のしかた**の項を参照してください。)

3.１番・２番の縦・横スクリュの点検と処置

❶グレンタンク内のもみを排出したあと，グレンタンクを取外します。(**メンテナンスのグレンタンクの取外し，取付けのしかた**の項を参照してください。)

❷各掃除口を点検し，異物がかみ込んでいるときは取除きます。(別冊の取扱説明書〈ホッパ仕様〉の**メンテナンスの掃除のしかた**の項を参照してください。)

アンローダの旋回異常が発生したときの処置

アンローダに過負荷がかかったとき，機械の破損を防止するためにアンローダの旋回異常が発生することがあります。異常が発生したときは，縦スクリュケースとタンクスクリュケースの接続部の下記点検箇所を確認したあと，処置を行なってください。

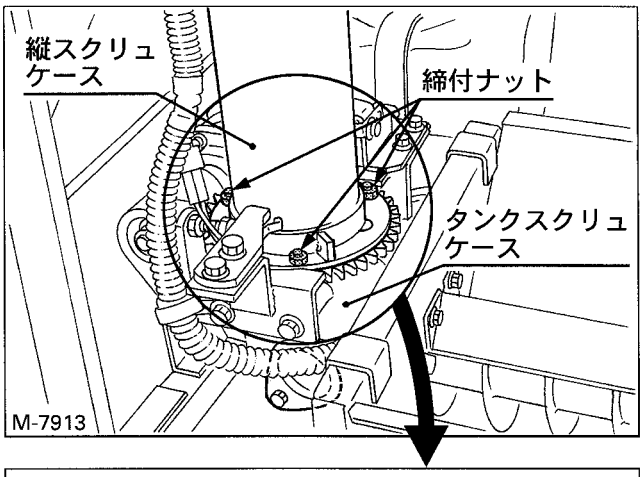
1. スクリュケース締付ナット（3箇所）

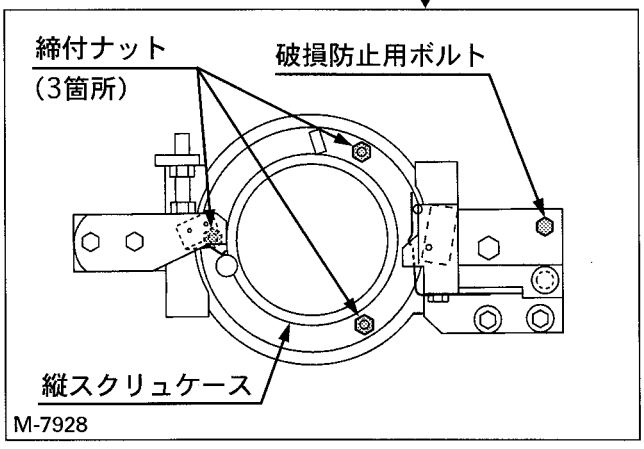
点検を行ない，ゆるんでいるときは，増締めを行なってください。

❶グレンタンクを取外します。
❷タンク後サイドカバーを取外します。
❸ナット3箇所を増締めします。
❹タンク後サイドカバーを取付けます。
❺グレンタンクを取付けます。

2. 破損防止用ボルト

点検を行ない，破損防止用ボルトが折れているときは，購入先に連絡してボルト交換を行なってください。





付　表

主要諸元

農機型式名			R9801G											
商品名			SR-J2G	SR-J3G		SR-J4G			SR-J5G			SR-J6G		
区分			KLW	DLW	DLW2	DLW	DLW2	HDLW	DLW	DLW2	HDLW	DLW	DLW2	HDLW
機体寸法	全長（mm）		2660											
	全幅（mm）		1485			1540								
	全高（mm）		1870											
機体質量〔重量〕(kg)			795	800	820	810	830	810	810	830	810	820	840	820
走行部	クローラ	中心距離（mm）	730		800	730	800	730		800	730	730	800	730
		幅×接地長（mm）	330×1030		400×1030	330×1030	400×1030	330×1030		400×1030	330×1030	330×1030	400×1030	330×1030
		平均接地圧 (kPa{kgf／cm²})	11.5 {0.12}	11.5 {0.12}	9.8 {0.10}	11.7 {0.12}	9.9 {0.10}	11.7 {0.12}	11.7 {0.12}	9.9 {0.10}	11.7 {0.12}	11.8 {0.12}	10.0 {0.10}	11.8 {0.12}
こく粒処理部	タンク容量（L{袋}）		330{約6.5}〔1袋約50L〕			370{約7.5}〔1袋約50L〕								
	アンローダ	排出方式	スクリュコンベア式											
		排出時間（s）	～150			～180								
		旋回範囲(度)・旋回方式	254(アンローダ収納位置から左回り)・電動モータ式											
		昇降範囲(度)・昇降方式	－13.5～45・電動モータ式											
		排出作業高さ(mm)	960～3810											
		排出作業長さ(mm)	2010～2730											
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○											
		自動方向制御	－					○	－		○	－		○
		アンローダ自動旋回装置	－						○					
		自動エンジン停止装置	○											
	防じんカバー		－									○		
	刈取りスライド装置		－	○(電動)										
	集中注油装置		－	○(手動)										
	警報装置		負荷，水温，オイル，もみ満杯，カッタ，排わら詰まり，結束ひも切れ											

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

＊エンジン，走行部，刈取部，脱こく部，排わら処理装置，作業能率については，別冊取扱説明書(ホッパ仕様)の主要諸元表を参照してください。

農機型式名			R9801G
商品名			R216SG
区分			DLW
機体寸法	全長(mm)		2660
	全幅(mm)		1485
	全高(mm)		1870
機体質量〔重量〕(kg)			810
エンジン	型式名		D782-C-4
	種類		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル
	総排気量(L{cc})		0.778{778}
	出力／回転速度(kW{PS}／rpm)		11.4{15.5}／2600
	使用燃料		ディーゼル軽油
	燃料タンク容量(L)		14
	始動方式		セルモータ式
	バッテリ(V・Ah)		12・27
走行部	クローラ 中心距離(mm)		730
	クローラ 幅×接地長(mm)		330×1030
	クローラ 平均接地圧(kPa{kgf/cm²})		11.7{0.12}
	最低地上高(mm)		145
	変速方式		油圧シフト
	変速段数		前進9段・後進3段
	走行速度(m／s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	低：0.18　0.28　0.37 中：0.32　0.52　0.67 高：0.76　1.23　1.62
		後進	低：0.20　中：0.36　高：0.87
	旋回方式		ブレーキターン
刈取部	刈取条数(条)		2
	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		795～845
	刈取装置形式		往復動刃式
	刃幅(mm)		750
	変速段数(段)		—
	こぎ深さ調節方式		電動モータ式
	刈取横スライド量(mm)		135
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式
	こぎ胴	径×幅(mm)	390×430
	こぎ胴	回転速度(rpm)	510
	2番還元方式		スクリュ式
	揺動板	幅×長さ(mm)	440×970
	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

農機型式名		R9801G
商品名		R216SG
区分		DLW
こく粒処理部	タンク容量(L{袋})	330{約6.5}〔1袋約50L〕
	排出方式	スクリュコンベア式
	排出時間(s)	150
	旋回範囲(度)・旋回方式	254〔アンローダ収納位置から左回り〕・電動モータ
	昇降範囲(度)・昇降方式	−13.5〜45・電動モータ
	排出高さ〔作業時〕(mm)	960〜3810
	排出長さ〔作業時〕(mm)	2010〜2730
排わら処理装置	工場出荷仕様	●50mm切断カッタ：S-15(S)〔標準切断刃〕 ●35mm切断カッタ：SS-15(S)〔標準切断刃〕 ●カッタ後部標準結束機：NK-15SY　●カッタ後部ストンパ結束機：NK-15SR
	ディーラオプション	●カッタ後部標準結束機：NK-15SY　●カッタ後部ストンパ結束機：NK-15SR ●単体標準結束機：NK-15Y　●単体ストンパ結束機：NK-15R ●カッタ後部ドロッパ：D-15　●標準結束機後部寄せ装置：YNK-2
諸装置 自動化装置	自動こぎ深さ制御	○
	自動方向制御	—
	アンローダ自動旋回装置	—
	自動エンジン停止装置	○
	刈取スライド装置	○〔電動〕
	集中注油装置	○〔手動〕
	警報装置	負荷，水温，オイル，もみ満杯，カッタ，排わら詰まり，結束ひも切れ
適応作物範囲〔全長〕(mm)		550〜1200
倒伏適応性(度)		追刈り：85以下・向刈り：70以下
作業能率〔計算値〕{a/hr{分/10a}		13{46}〈中：3速〉〜3{171}〈低：1速〉

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

＊カッタ+結束機は，標準結束機，ストンパ結束機に装着できますが，N仕様以外装着できません。

付属部品

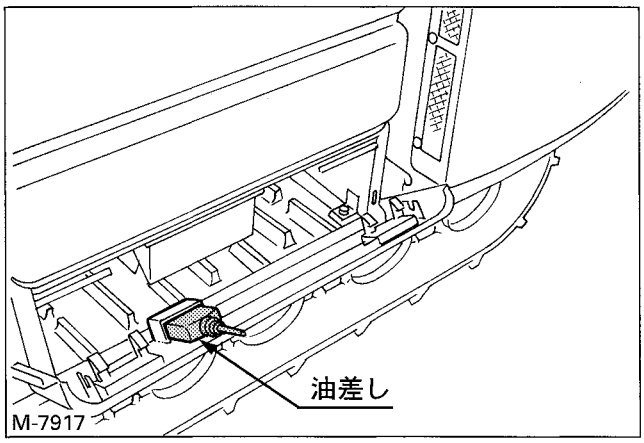
【グレンタンク仕様】

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊保証書	1
＊取扱説明書	1
＊本機カバー	1
＊小物部品	1セット
＊デバイダ	1式
＊デバイダカバー	1
＊スローブローヒューズ(50A)	1
＊バネ板	1
(別冊取扱説明書102ページ参照)	
＊スライドカバーアッシ	1
(別冊取扱説明書103ページ参照)	
＊工具	
10－12スパナ	1
12－14スパナ	1
17－19スパナ	1
⊕⊖ドライバ	1
プライヤ	1
油差し	1
じょうご(ビニールホース付)	1
給油パイプ	1
工具袋	1

補　足

＊油差しは下図の場所に収納してください。



オプション(別売品)

■アンローダリモコン

アンローダの昇降，旋回やもみの排出の操作がアンローダの先端で行なえます。

品　番	品　名
5H291-00000	SR-JGPKパワークラッチ，キット

■作業灯

“アンローダ先端部”を照明する作業灯です。

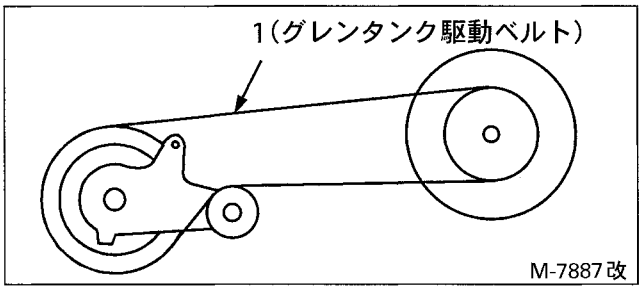
品　番	品　名
5H250-9202-0	ランプ,アッシ(G,サギョウトウ)

※**アンローダリモコンを取付けた場合**は下記品番で注文してください。

品　番	品　名
52200-4184-2	ランプ２アッシ

消耗部品

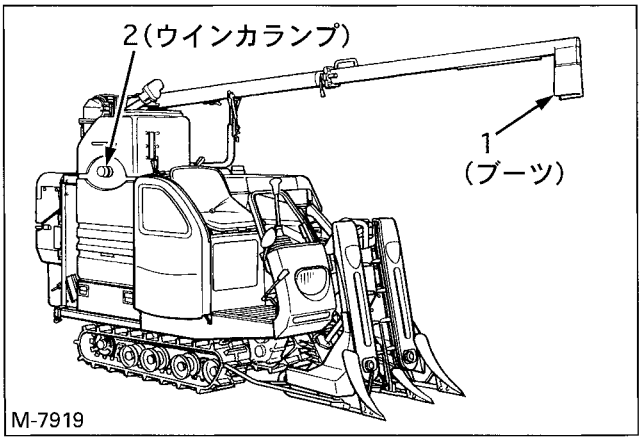
■ベルト関係



図番	品　名	品　番	対象型式
1	特A40ベルト	5H250-1151-0	全型式

■アンローダ吐出口ブーツ

■ランプ(電球)



図番	品　名	品　番	対象型式
1	ブーツ	5G021-1421-0	全型式
2	ランプバルブ	36200-7517-0	

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　－
ご購入日	型式名	区分
車台番号(製造番号)	エンジン型式	エンジン番号

万一購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市浦和区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(0722)41-8506　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
機械福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(0722)41-8092　〒590-0823　堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(0188)45-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市浦和区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1261　〒950-0992　新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(0762)75-1121　〒924-0038　松任市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(0722)41-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011　〒683-0804　米子市米原７丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部：電(0878)74-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(0188)45-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市浦和区西堀５丁目２番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(0722)41-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
中四国系統推進部：電(0878)74-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号

SR-J2G・J3G・J4G・J5G・J6G・R216SG
AF．△．9－10．10．AK

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　　〒556-8601

品番 5H250－8542－4

Kubota